

令和7年度岡山市野生鳥獣被害  
実態調査業務  
実績報告書

令和8年3月  
株式会社野生鳥獣対策連携センター



## 目次

1. 業務目的	1
2. 対象範囲	1
3. 期間	1
4. 農作物被害等の調査	1
(1) アンケート調査票の入力、集計、作図	1
(2) アンケート調査による結果	1
ア. 目撃情報（令和5年度から令和7年度の経年変化）	2
イ. 農業被害の程度と増減（令和5年度から令和7年度の経年変化）	11
ウ. 獣種毎の被害程度の割合	20
エ. 獣種ごとの防護柵設置と捕獲実施の状況	21
オ. 獣種ごとの被害作物の種類と発生状況	29
カ. 有害捕獲データの分析	41
(3) 農作物被害等のアンケートに基づくヒアリング	42
(4) 考察	47
5. ICTを活用した捕獲支援	48
(1) 支援対象地域	48
(2) 指導実施計画案の策定	48
(3) 事業説明会・捕獲技術講習会の実施	48
(4) モニタリング・巡回指導等の実施	50
(5) 考察	62
6. 事業全体の総括	63

## 1. 業務目的

岡山市（以下、甲）が行う野生鳥獣による農作物被害等の調査結果の集計および市が保有している有害捕獲データ等の集計を基に、被害状況の作図を行う。また、令和6年度において実施した野生鳥獣による農作物被害等のアンケートおよびヒアリング調査を基に、被害が深刻であった集落を支援対象地域としてICTを活用した捕獲支援を行い、鳥獣被害の抑制を図るとともに、その効果の分析を行う。

## 2. 対象範囲

岡山市全域

## 3. 期間

令和7年10月3日から令和8年3月31日

## 4. 農作物被害等の調査

### (1) アンケート調査票の入力、集計、作図

岡山市が行った野生鳥獣による農作物被害等の調査結果を集計し、令和5年度から令和7年度のアンケートの全回答から得られた結果および推移を各年度について、項目別に被害状況を分析し、地域名を明記して評価した。また、岡山市が提供する令和7年1月～12月の有害捕獲データについても集計し、アンケート結果等を参照して関連性や被害の分析を行った。これらの結果の詳細は以下の(2)に記した。

### (2) アンケート調査による結果

小学校区の農業委員および推進委員に対して令和7年度の集落での被害状況についてアンケート調査を行った。アンケートの調査票様式は巻末資料1のとおりである。調査票の回答者は、岡山市内各小学校区の農業委員17名および推進委員80名の、合計97名の委員である。

回収アンケートのうち、推進委員が回答したアンケートを集計に用い、農業委員が回答したアンケートは、自由回答のみ反映した。全ての回答における自由回答は、巻末資料2に示した。

アンケートの集計においては、1名の推進委員が2つ以上の小学校区に対し回答した場合は、それぞれの小学校区に同一の回答を与えて集計した。また、1つの小学校区に対して、2名以上の推進委員が回答した場合は、以下のとおりに集計した。

#### 【生息有無】

「いる」の回答が1名でもいれば、小学校区の回答を「いる」とした

#### 【集落等での目撃】

回答の優先順位を「よく見る」「たまに見る」「あまり見ない」とし、この順で1名でも回答があった回答項目を小学校区の回答とした

#### 【集落での被害程度】

回答の優先順位を「非常に大きい」「大きい」「軽微」「ほとんどない」とし、この順で1名でも回答があった回答項目を小学校区の回答とした

**【農業被害の増減】**

回答の優先順位を「増えた」「変わらない」「減った」とし、この順で1名でも回答があった回答項目を小学校区の回答とした

「新たに発生した」については、集計時は「増えた」と同等し、図示の際に小学校区の中心点を異なる色で示した

**【回答が「有・無・不明」の設問】**

「有」の回答者が1名でもいれば、小学校区の回答を「有」とした

**【設置している柵の種類】**

実施していると回答した方が1名でもいれば、小学校区ではその種類の柵の設置を実施しているとした

アンケートの集計および分析は、回答を必須とした「イノシシ」「ニホンジカ」「ニホンザル」「ヌートリア」「ハクビシン」「アライグマ」「アナグマ」の7獣種を対象とした。アンケート項目のうち「農地・集落の周辺での目撃」、「令和7年度の農業被害」、「前年度と比較した農業被害」については、岡山市内全体の状況を把握できるよう、QGISソフトで空間補正した地図を作成し、また令和5年度からの経年変化を把握できるようにした。

なお、アンケートにおいて、7獣種以外に7鳥獣種（カモ、カラス、ジャンボタニシ、スズメ、テン、ヒヨドリ、モグラ）に対する回答があった。これら7鳥獣種で最も回答が多かったのはカラスで21件、次いでカモ6件であった。残り5鳥獣種の回答数はいずれも5件以下であった。

アンケート調査の結果を基に、被害の状況について以下のとおり作図した。

**ア．目撃情報（令和5年度から令和7年度の経年変化）**

令和7年度の農地・集落の周辺での目撃に関する回答結果について、獣種ごとに図で示した。ただし今年度から回答情報を収集したアライグマ、アナグマについては令和7年度の結果のみ示した。昨年度から回答情報を収集したハクビシンは令和6、7年度の結果を示した。

**【イノシシ（図1）】**

令和5年度から令和7年度までのイノシシの目撃状況の経年変化を確認すると、令和6年度には市街地およびその周辺を除く広い範囲で「よく見る」と回答した小学校区が増加した。令和7年度には「よく見る」と回答した小学校区は減少したものの、依然として多くの小学校区が「よく見る」と回答した。

令和6年度から令和7年度にかけての変化を小学校区単位で確認すると、「よく見る」と回答されていた北部の建部、東部の千種、浮田および大宮、南部の灘崎の計5小学校区

では「たまに見る」に、また北部の竹枝および東部の御休では「あまり見ない」に変化した。さらに、「たまに見る」と回答されていた五城、富山および政田の3小学校区では「あまり見ない」に変化した。これらを合わせ、計10小学校区で目撃頻度の減少が確認された。一方、「たまに見る」と回答されていた北部の庄内小学校区が「よく見る」に、「あまり見ない」と回答されていた東部の平島小学校区が「たまに見る」に変化し、2小学校区で目撃頻度の増加が確認された。

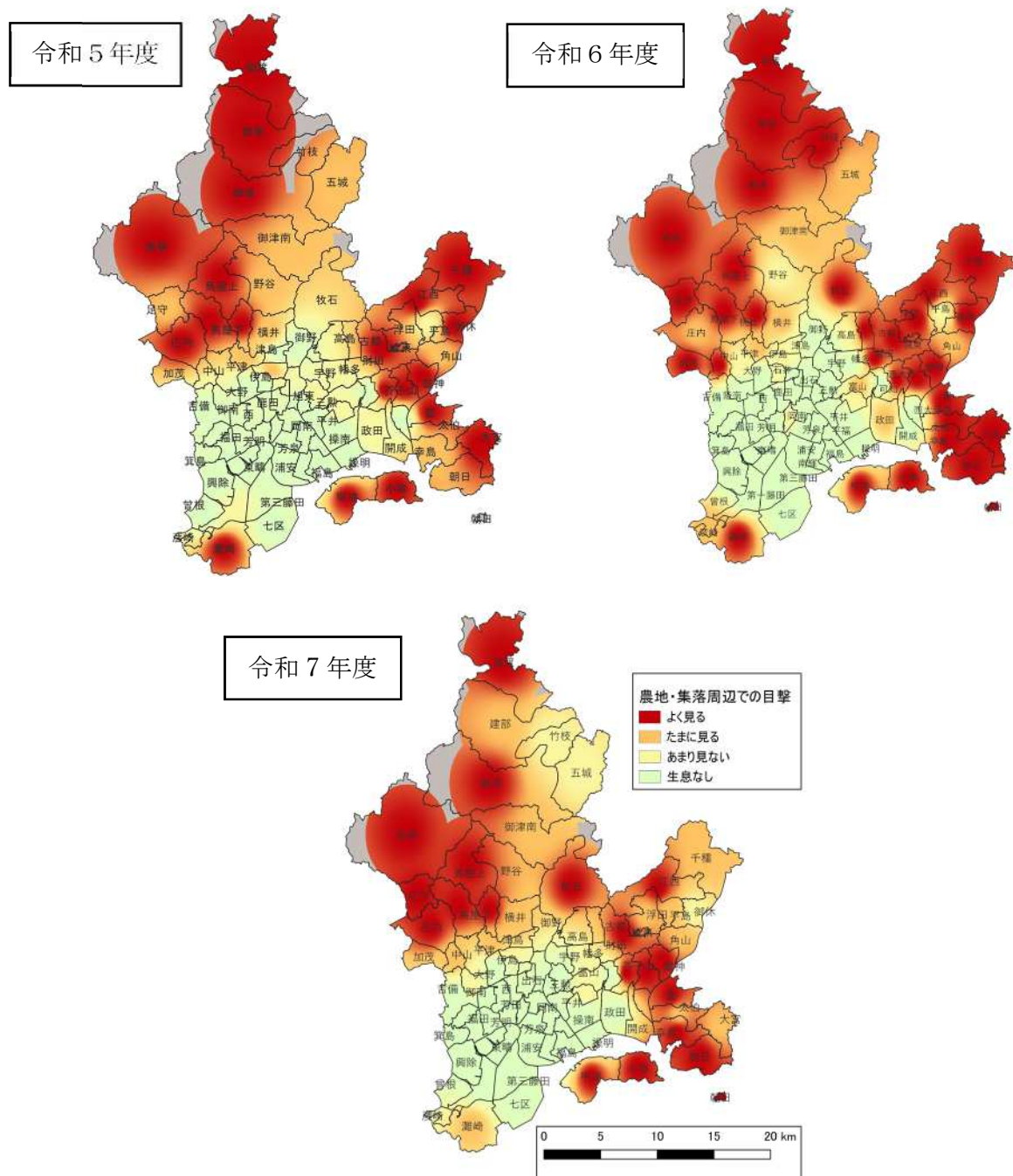


図1.イノシシの目撃

【ニホンジカ（図2）】

過去3年間の変化を確認すると、「よく見る」と回答した小学校区は令和5年度および令和6年度には確認されたが、令和7年度には確認されなかった。

令和6年度から令和7年度にかけての変化をみると、「よく見る」と回答されていた北部の竹枝小学校区は「たまに見る」まで目撃頻度が減少した。また、「たまに見る」と回答されていた北西部の足守および馬屋下の2小学校区では「あまり見ない」まで、東部の大宮小学校区では「生息なし」まで目撃頻度が低下した。一方、令和6年度は「生息なし」と回答していた北西部の庄内小学校区では「あまり見ない」と、増加の方向に回答が変化した。

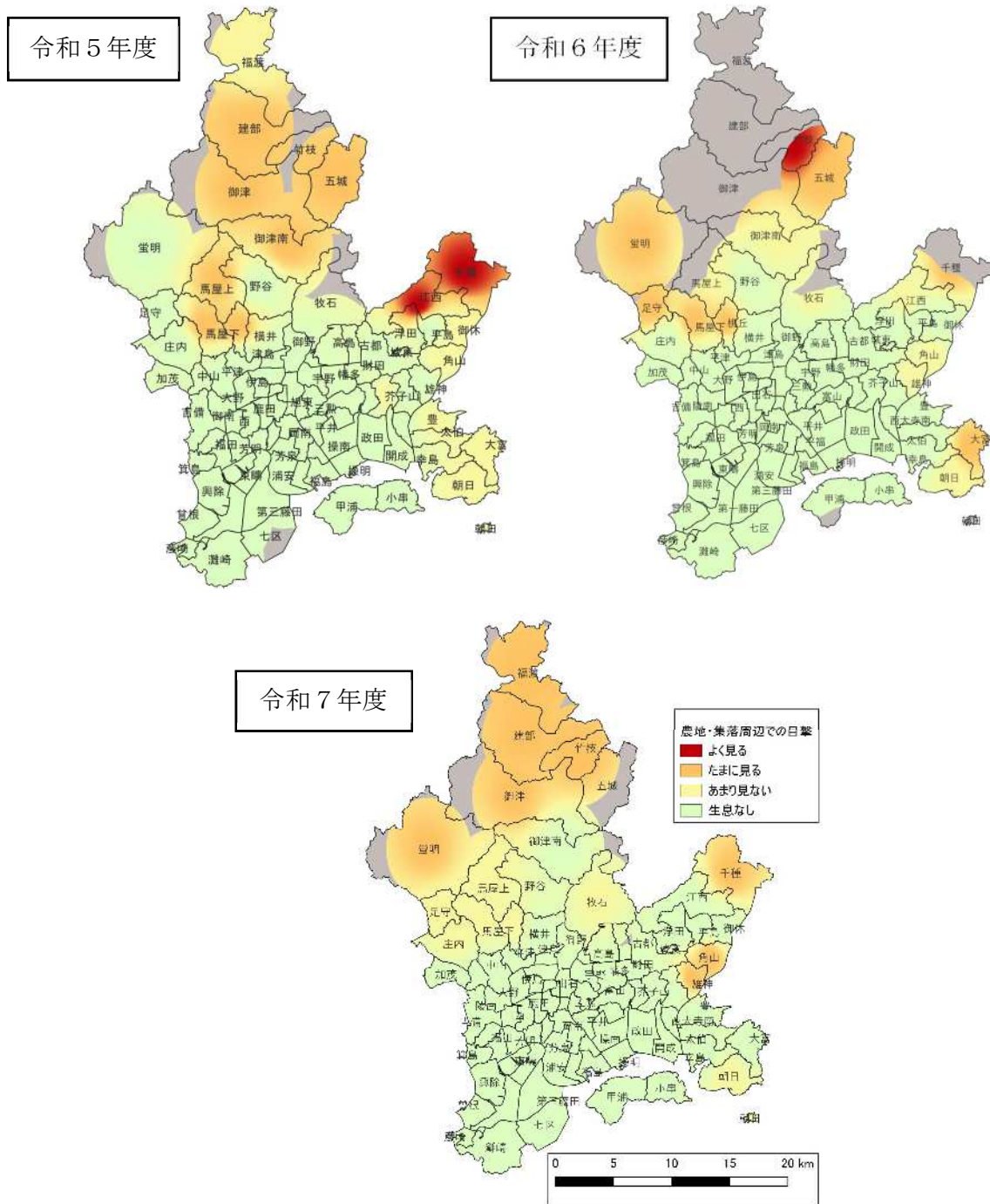


図2. ニホンジカの目撃

【ニホンザル（図3）】

ニホンザルの令和5年度から令和7年度までの目撃頻度についてみると、北部および東部では毎年目撃が確認されているものの、「よく見る」と回答した小学校区はなかった。

令和6年度から令和7年度にかけての変化をみると、「たまに見る」と回答されていた北部の建部、北西部の蛍明および東部の大宮の3小学校区では、「生息なし」まで目撃頻

度が減少し、北部の牧石、北西部の足守および東部の千種の3小学校区では「あまり見ない」まで目撃頻度が減少した。一方で、「生息なし」と回答されていた東部の角山小学校区では、「あまり見ない」まで目撃頻度が増加した。北西部の桃丘小学校区では令和5年度から継続して「たまに見る」と回答した。

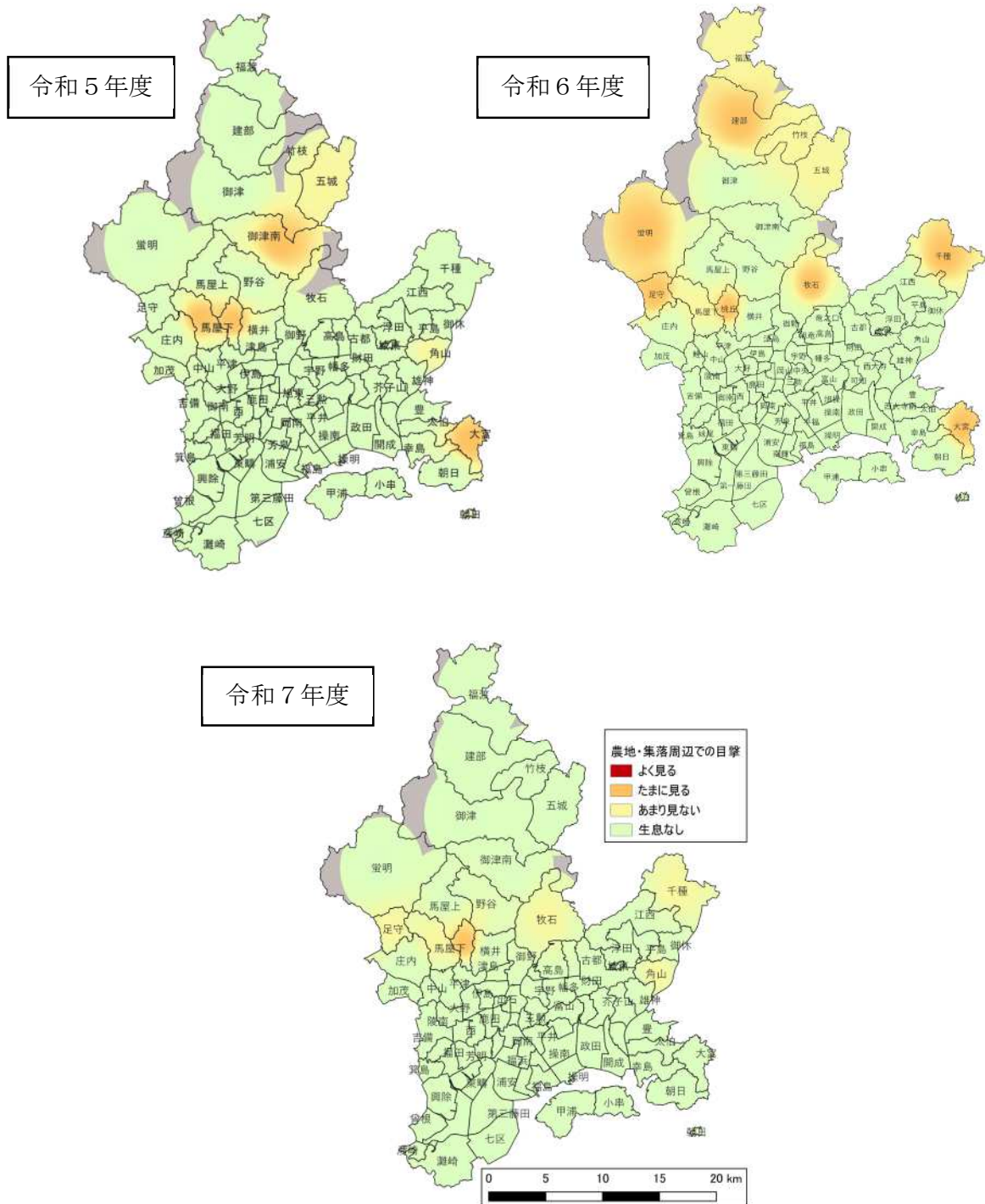


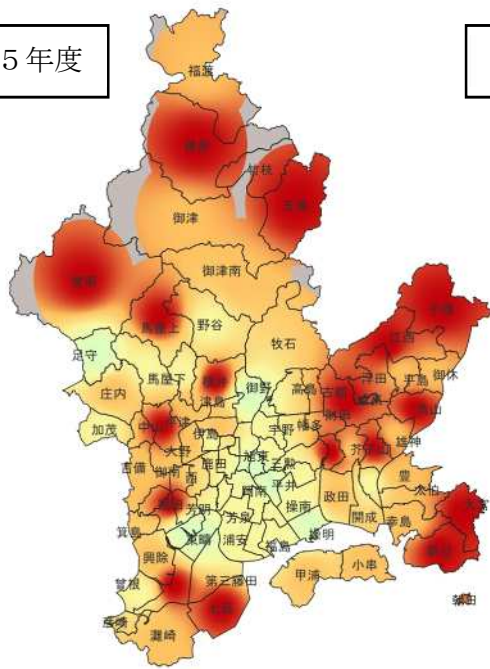
図3. ニホンザルの目撃

## 【ヌートリア】

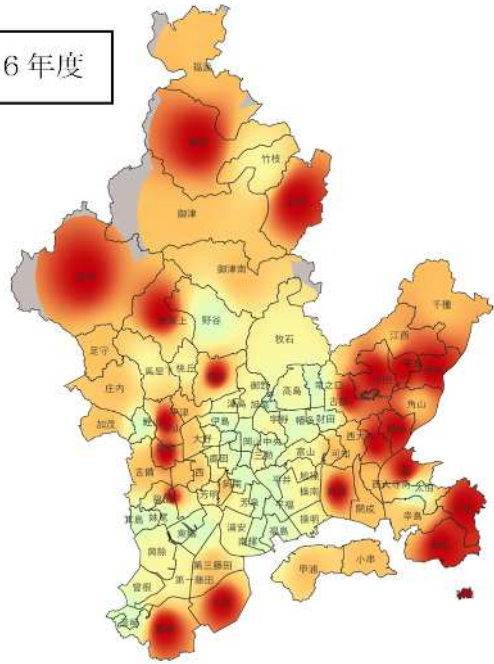
ヌートリアは、過年度の調査においても「よく見る」または「たまに見る」と回答した小学校区が市内全域に広がっており、令和7年度においても依然として市全体にて高い目撃頻度を示している。

令和6年度から令和7年度にかけての変化を見ると、「たまに見る」と回答していた北部の御津南、東部の角山、北西部の加茂および西部の吉備の4小学校区での目撃頻度が「よく見る」まで増加している。加えて、目撃頻度が「あまり見ない」と回答していた牧石、高島、富山、操明、操南、太伯および興除の7小学校区において「たまに見る」まで増加しており、広い範囲で増加傾向が確認された。一方で「よく見る」と回答した北部の建部、蛍明、東部の大宮、朝日、南部の灘崎の5小学校区での目撃頻度が「たまに見る」まで減少した。

令和5年度



令和6年度



令和7年度

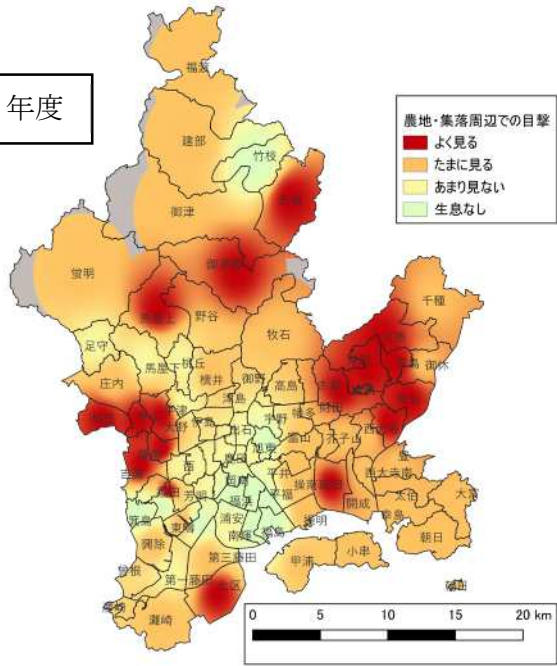


図4. ノートリアの目撃

【ハクビシン（図5）】

令和6年度と令和7年度間の目撃頻度についてみると、「よく見る」と回答していた北部の牧石、東部の西大寺の2小学校区が目撃頻度が「たまに見る」まで減少した。また、「たまに見る」と回答していた北部の建部、五城、御津南、東部の角山および幸島、西部の箕島、北西部の足守、馬屋上および加茂の9小学校区で目撃頻度が「あまり見ない」あるいは「生息なし」まで減少した。

一方で、「あまり見ない」と回答していた北部の福渡、東部の古都、北西部の庄内、「生息なし」と回答していた北部の横井の4小学校区で目撃頻度が「たまに見る」まで増加した。

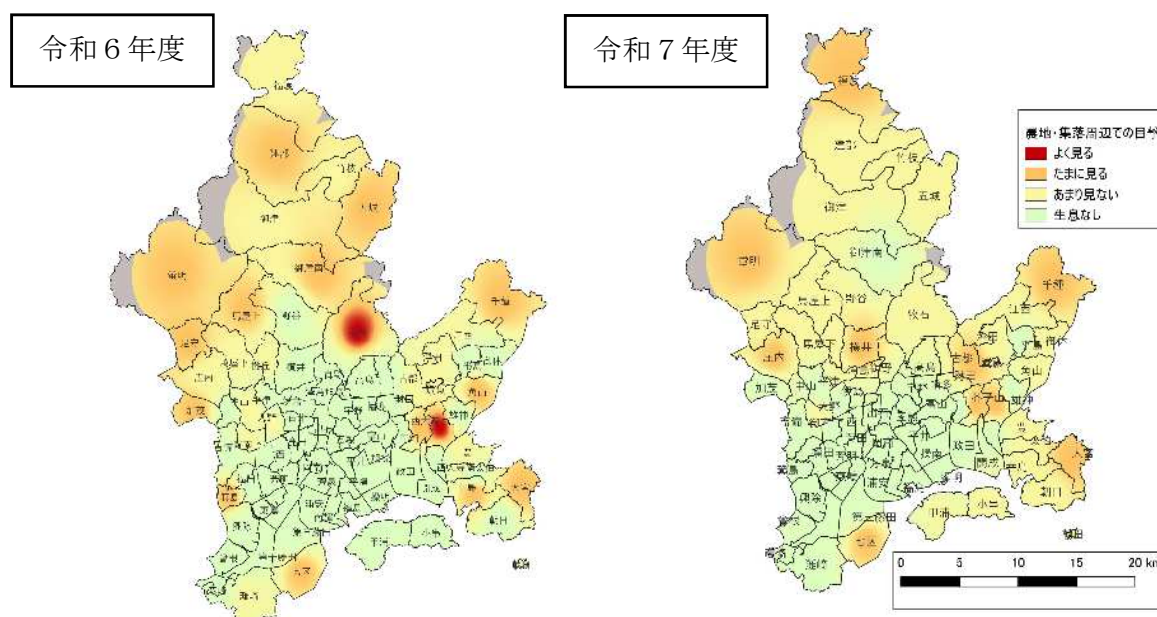


図5. ハクビシンの目撃

【アライグマ（図6）】

令和7年度が目撃頻度は、東部の古都、北西部の蛍明、足守、庄内、東部の大宮、南部の七区の6小学校区で「たまに見る」、北部の福渡、建部、牧石、北西部の馬屋上、東部の角山、芥子山で「あまり見ない」と回答されていた。

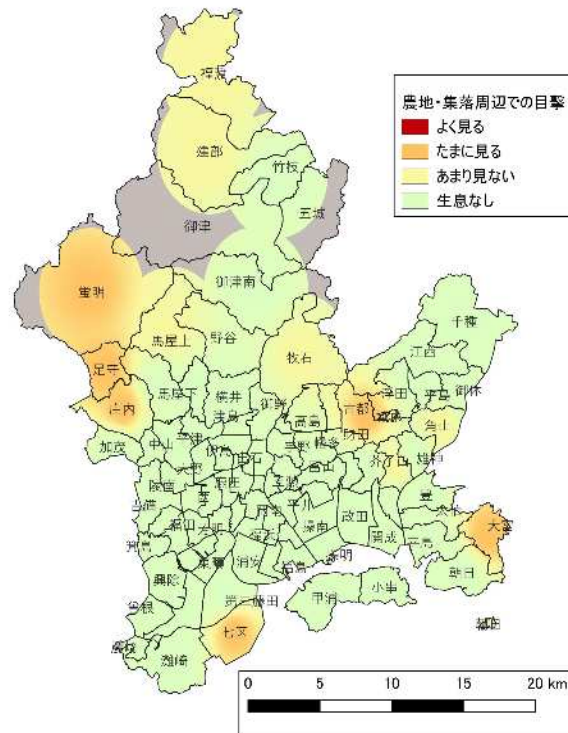


図6. 令和7年度におけるアライグマの目撃

【アナグマ (図7)】

令和7年度の目撃頻度については、北部の五城で「よく見る」、東部の浮田、芥子山、大宮、朝日、北西部の蛍明、庄内、馬屋下の7小学校区で「たまに見る」、北部の福渡、建部、牧石、北西部の足守、馬屋上、東部の江西、古都、角山の8小学校区で「あまり見ない」と回答されていた。

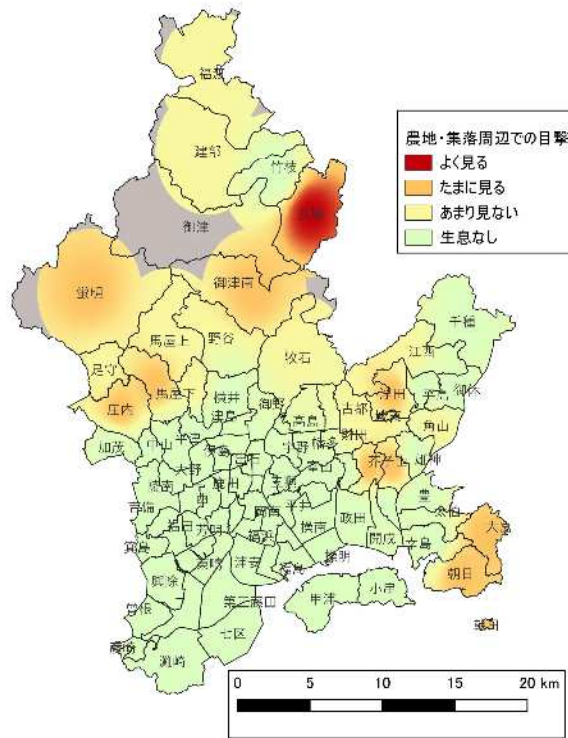


図7. 令和7年度におけるアナグマの目撃

イ. 農業被害の程度と増減（令和5年度から令和7年度の経年変化）

令和5年度から令和7年度の農業被害の程度と、令和6年度から令和7年度間での農業被害の増減を、獣種ごとに図8～図14に示した。

【イノシシ（図8）】

イノシシによる農業被害の程度は、令和5年度から令和7年度では、被害が「大きい」または「非常に大きい」と回答された地域に大きな変化はなく、目撃頻度の高い地域において、被害が大きい傾向にある。

農業被害の程度について、令和6年度と令和7年度を比較すると、北西部の馬屋上、東部の大宮、南部の灘崎の3小学校区の農業被害は「非常に大きい」から「大きい」に減少した。また、「大きい」と回答していた北部の竹枝、東部の浮田、御休の3小学校区では、農業被害が「ほとんどない」に減少した。一方で、北西部の蛸明小学校区の農業被害は、「大きい」から「非常に大きい」に、北部の御津南、横井、建部では「ほとんどない」から「軽微」に増加した。

令和6年度と令和7年度での農業被害の増減においては、北西部の馬屋上、中央部の平津、東部の角山、雄神、可知、豊および太伯の7小学校区で「増えた」と回答した。一方で、北部の竹枝、御津、東部の御休および朝日で「減った」という回答があった。

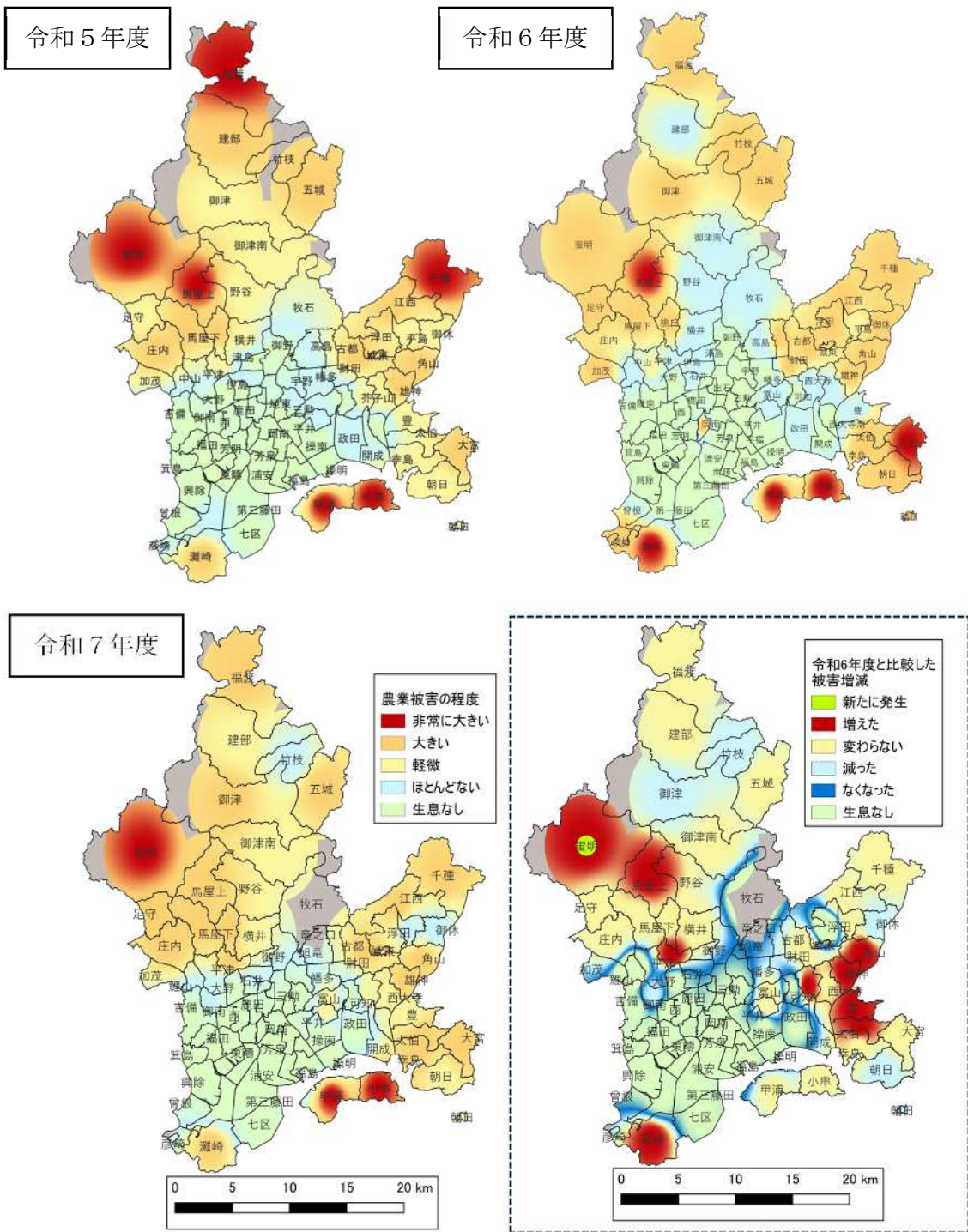


図8. イノシシによる農業被害の程度および農業被害の増減（点線囲い内）

【ニホンジカ（図9）】

ニホンジカによる農業被害の程度では、令和5年度以降、全ての地域が「軽微」、「ほとんどない」あるいは「生息なし」と回答している。令和6年度および令和7年度も「大きい」または「非常に大きい」の回答はないことから、市全域において被害は少ないと言える。しかし、令和6年度において「軽微」と回答した小学校区が蛍明、五城、桃丘

の3小学校区であったのに対し、令和7年度においては、福渡、五城、馬屋下、千種、角山の5小学校区となったことを踏まえると、東部に被害範囲が拡大したといえる。

令和6年度および令和7年度間での農業被害の増減についてみると、建部小学校区が「増えた」と回答している。また、蛭明小学校区では「新たに発生した」という回答があった。

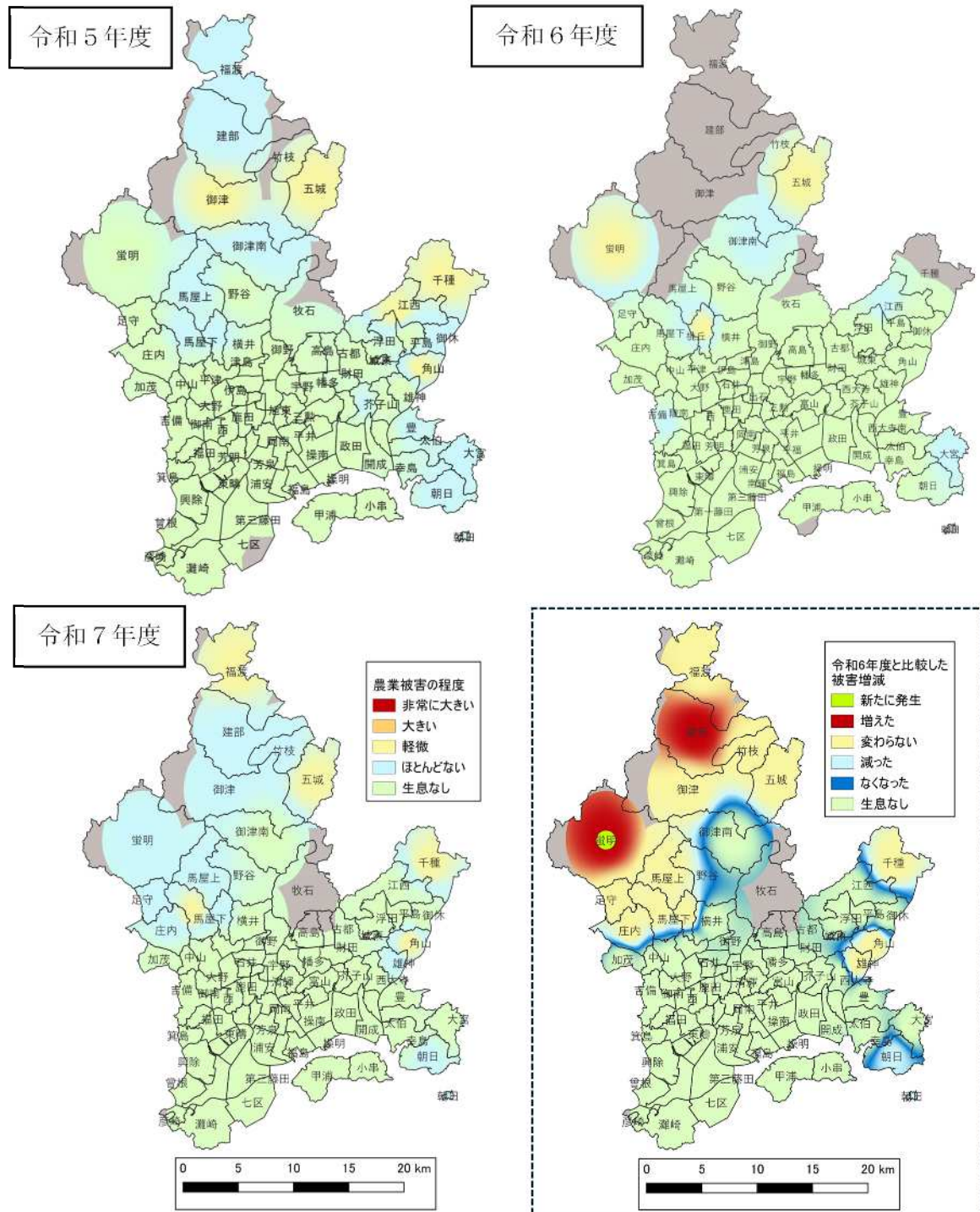


図9. ニホンジカによる農業被害の程度および農業被害の増減（点線囲い内）

【ニホンザル（図10）】

過去3年間で確認された、ニホンザルによる被害の程度は「軽微」以下であり、その地域も市の北部や北西部および東部の一部に限定された。令和6年度では、福渡、竹枝、蛍明、馬屋下、牧石、桃丘、千種の7小学校区で「軽微」の回答があったが、令和7年度では、千種小学校区のみであり、被害程度の低下が確認された。

令和6年度および令和7年度間での農業被害の増減においては、「増えた」あるいは「減った」と回答した地域はなく、市全域で変化はなかった。

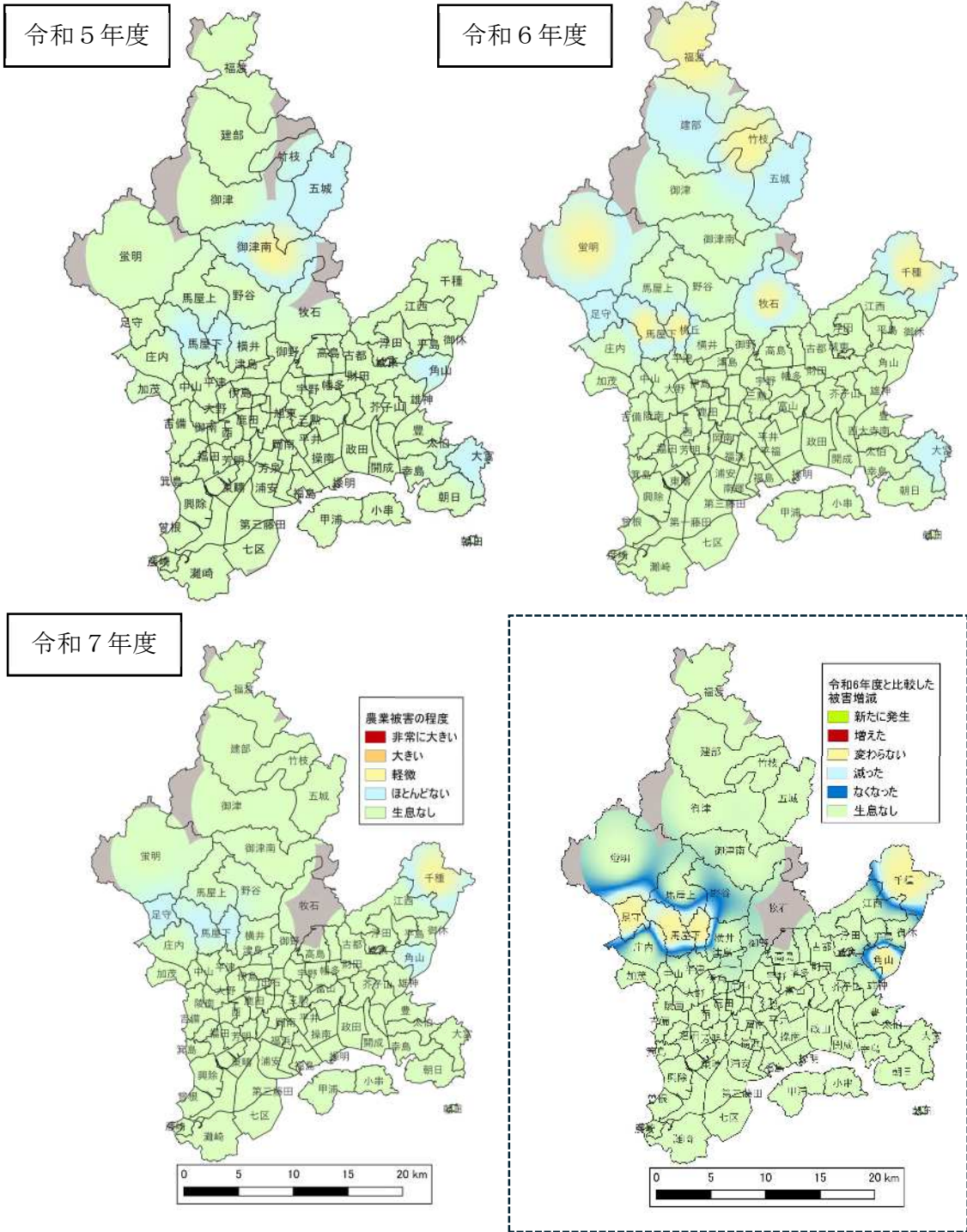


図 10. ニホンザルによる農業被害の程度および農業被害の増減（点線囲い内）

【ヌートリア（図 11）】

ヌートリアによる農業被害の程度は、令和 5 年度以降「非常に大きい」の回答はないものの、市内の広い範囲で「大きい」または「軽微」の回答があった。令和 5 年度に被害程度が「大きい」と回答した小学校区は東部の千種、江西、平島などで確認されてお

り、令和6年度は、これまでに回答があった地域に加え、東部の政田および開成でも確認された。令和7年度では、「大きい」と回答した小学校区は、東部の江西、平島、角山、政田および北西部の中山の5小学校区であった。また令和6年度と比較すると、令和7年度は「軽微」と回答する小学校区が市全域で増えた。

令和6年度および令和7年度間での被害の増減については、「増えた」と回答した小学校区は北部の五城、東部の平島、角山、雄神、政田の5小学校区であった。

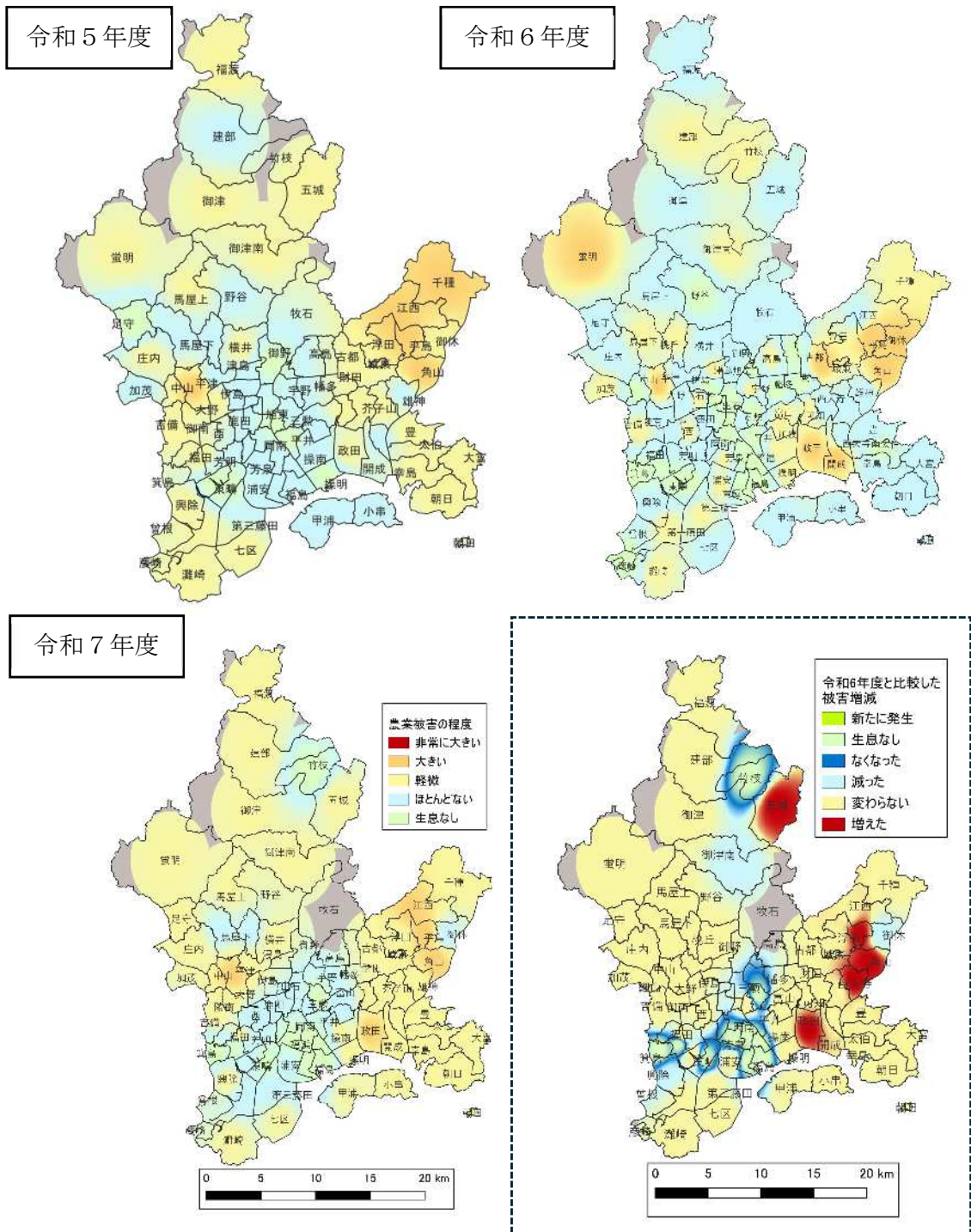


図 11. ノートリアによる農業被害の程度および農業被害の増減（点線囲い内）

【ハクビシン（図 12）】

令和6年度と令和7年度間のハクビシンによる農業被害について見ると、2年続いて、「非常に大きい」と回答した地域はなかった。被害程度の変化の詳細について見ると、「大きい」と回答していた東部の角山小学校区が「軽微」と回答した。また、「軽微」と回答していた北部の御津南、東部の千種、豊、北西部の馬屋下、中山、桃丘、西部の箕島、南部の灘崎、七区小学校区の9小学校区で被害が減少し、「ほとんどない」あるいは「生息なし」と回答した。一方で、東部の芥子山、北部の横井の2小学校区が「大きい」と回答した。また、被害がほとんどなかった北部の建部、東部の江西、浮田、古都、大宮、北西部の庄内、馬屋上、南部の甲浦、中央部の平津の9小学校区は「軽微」と回答した。

令和6年度と令和7年度の農業被害の増減について見ると、北部の横井、東部の浮田、北西部の蛍明の3小学校区が「増えた」と回答しているが、新たに被害が発生した小学校区はなかった。

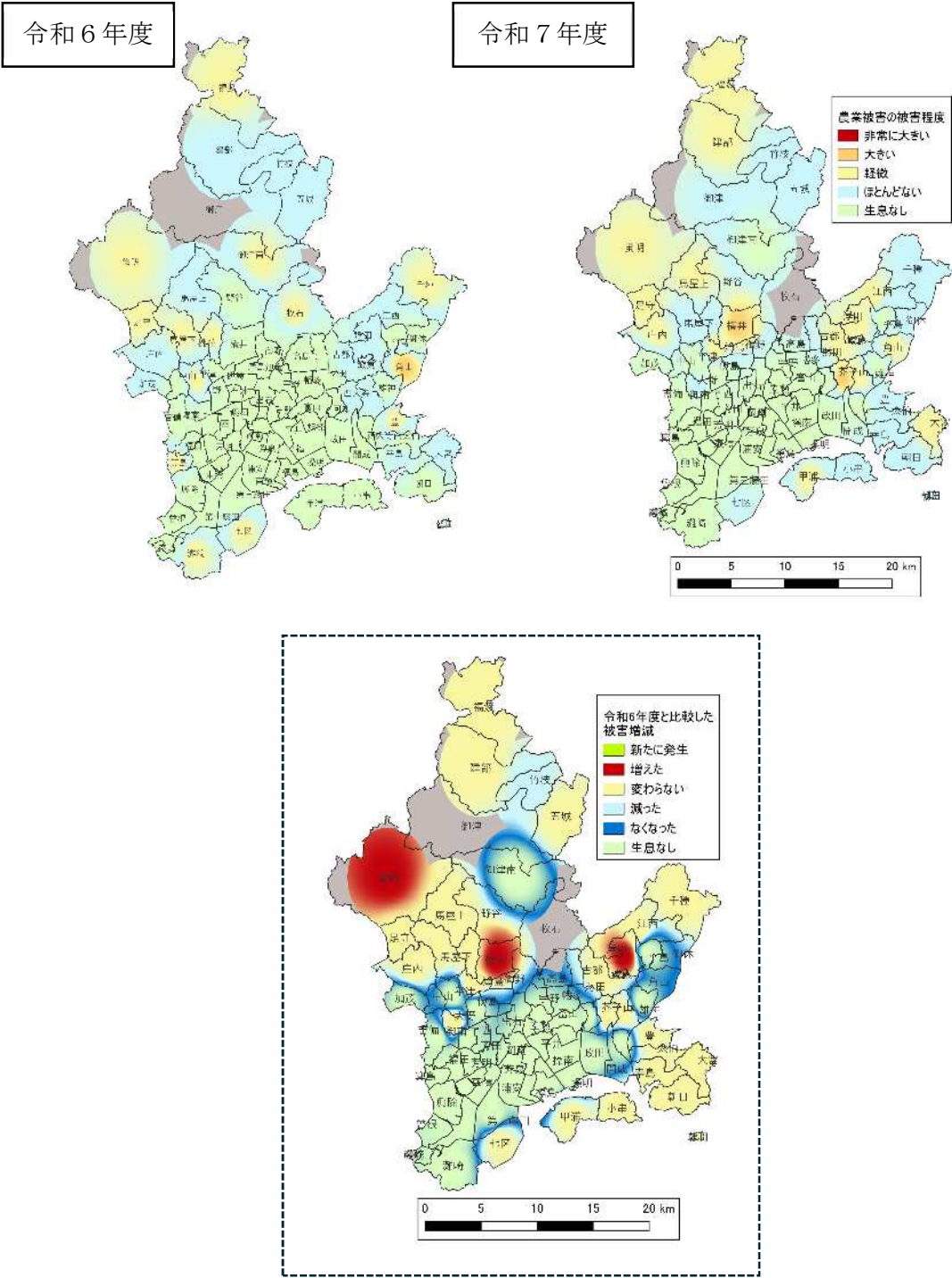


図 12. ハクビシンによる農業被害の程度および農業被害の増減

【アライグマ (図 13)】

アライグマによる農業被害の多くは市内の北部、北西部、東部にて確認されたが、そのすべてが被害の程度は「ほとんどない」あるいは「軽微」と回答したことから、市全域において、被害は少ないと言える。

被害の増減については、被害程度が「増えた」と回答した小学校区は東部の浮田小学校区のみであり、「新しく発生した」と回答した小学校区はなかった。

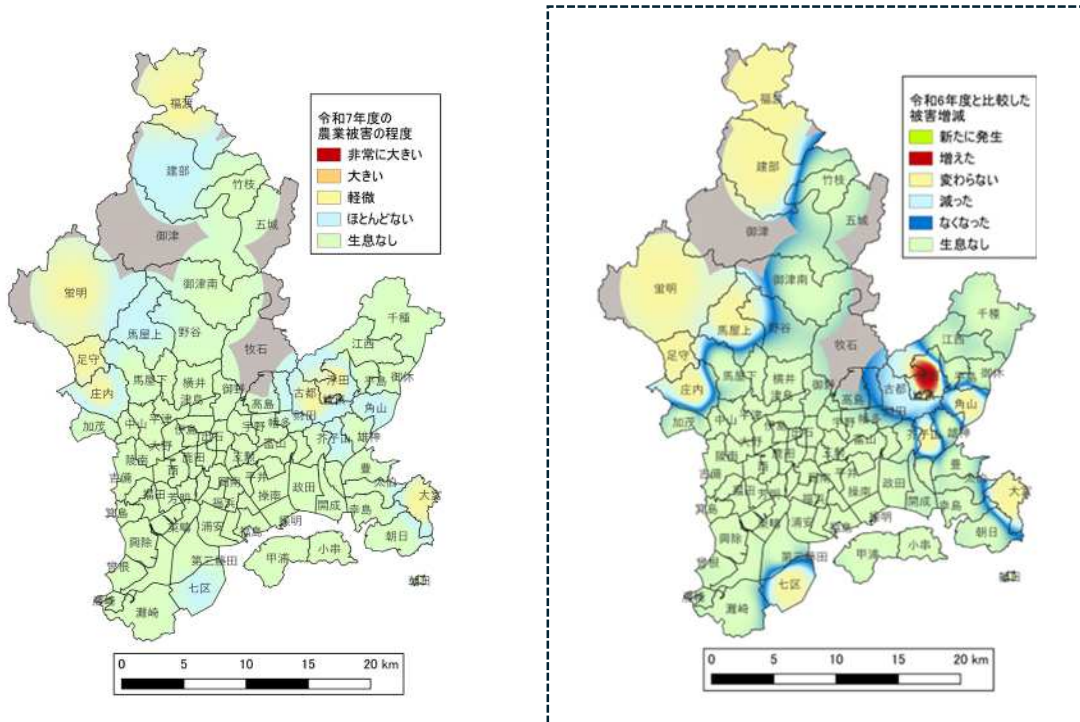


図 13. アライグマによる農業被害の程度および農業被害の増減

【アナグマ (図 14)】

アナグマによる農業被害の多くは、市内の北部、北西部、東部で確認されたが、そのすべての被害程度は「ほとんどない」あるいは「軽微」との回答であった。被害の増減については、被害程度が「増えた」と回答した小学校区は北部の五城、東部の浮田、西部の足守の3小学校区であり、「新たに発生した」と回答した小学校区はなかった。

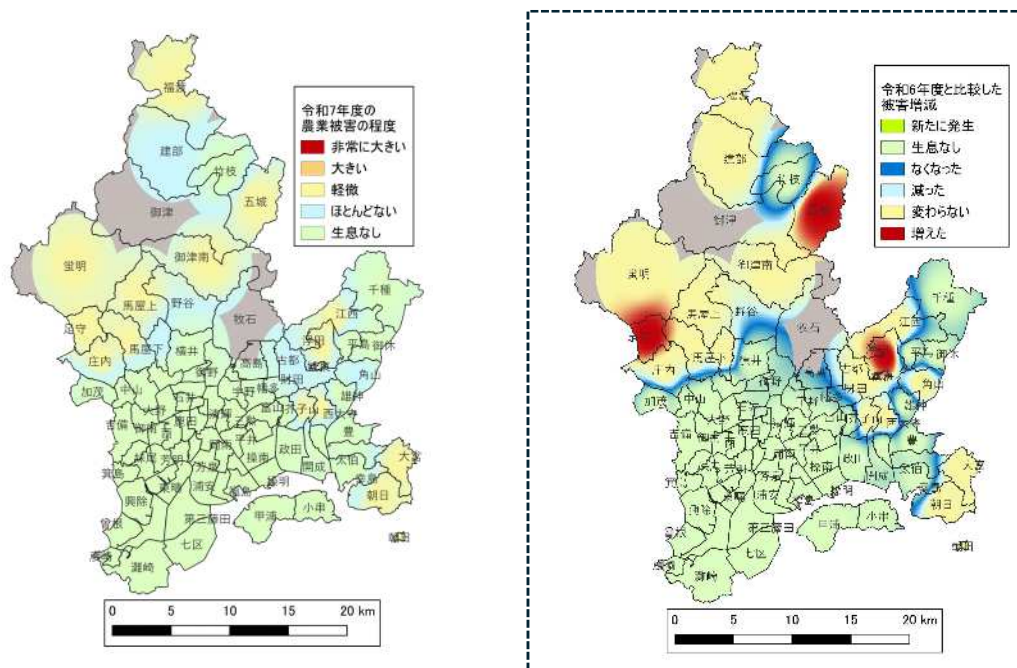


図 14. アナグマによる農業被害の程度および農業被害の増減

#### ウ. 獣種毎の被害程度の割合

図 15 に、各獣種における被害程度の回答割合を示す。

被害程度が「非常に大きい」と回答された獣種はイノシシのみであったが、その割合はイノシシの被害があると回答した 42 小学校区のうち、3 小学校区となった。「大きい」を含めた場合も、イノシシが約 5 割（23 小学校区）と最も高い割合を占めた。その他の獣種で「大きい」との回答があったのはヌートリアとハクビシンであったが、いずれも 1 割未満であった。

ニホンジカ、ニホンザル、およびアライグマについては、岡山市内での生息域が限定的であり、個体数も少ない（図 2～図 3、図 6）ことから、被害程度は「軽微」以下となったと推察される。

以上の結果から、岡山市において対策を優先すべき獣種は、第一にイノシシであり、次いで小型獣であるヌートリアおよびハクビシンであると言える。

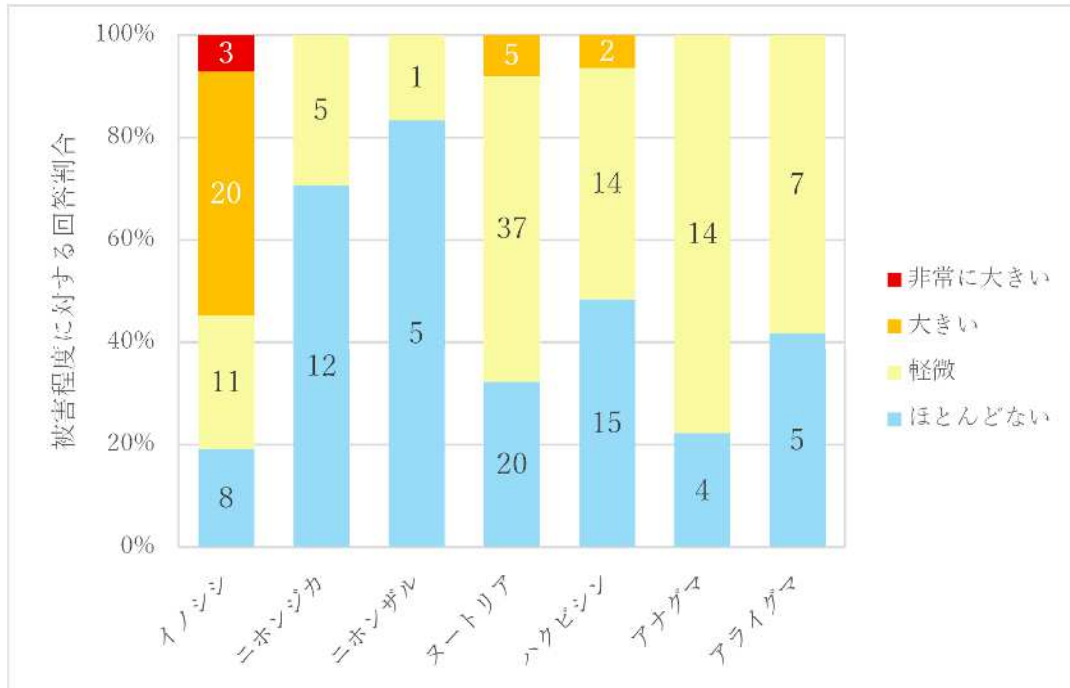


図 15. 各獣種における被害程度に対する回答割合

#### エ. 獣種ごとの防護柵設置と捕獲実施の状況

獣種ごとに防護柵設置と捕獲実施の状況およびその効果について、被害程度で分けて示した。対策効果については、防護柵あるいは捕獲を実施していると回答があった小学校校区のうち、効果に対する回答があったものを集計対象とした。

#### 【イノシシ (図 16、図 17)】

イノシシによる被害が「非常に大きい」と回答した3小学校校区のうち、1小学校区では電気柵および金網柵の両方を、2小学校区では電気柵を設置しており、このうち2小学校区が電気柵による効果を感じていた。被害が「大きい」と回答した20小学校区では10小学校区が電気柵および金網柵の両方を、2小学校区が電気柵を、2小学校区が金網柵を設置しており、電気柵を設置した12小学校区または金網柵を設置した12小学校区のうち、それぞれ9割以上となる11小学校区が効果を感じていた。

「軽微」以下の被害程度を回答した小学校区においても、柵を設置した多くの小学校区が効果を感じていた。

また、捕獲の実施状況については、被害が「非常に大きい」と回答した3小学校区のうち1小学校区のみで捕獲を実施していたが、この小学校区では効果について回答が得られなかった。一方、「大きい」と回答した20小学校区のうち6割にあたる12小学校区が捕獲を実施しており、効果について回答があった8小学校区のうち6小学校区が効果を感じていた。それ以下の被害程度を回答した小学校区においては、効果について回答した小学校区は全て効果を感じており、効果がないと回答した小学校区はなかった。

イノシシの被害対策として防護柵及び捕獲を実施している小学校区では、効果を実感

している小学校区が多く、防護柵及び捕獲の両方の対策を実施することで高い被害対策効果が得られると考えられる。

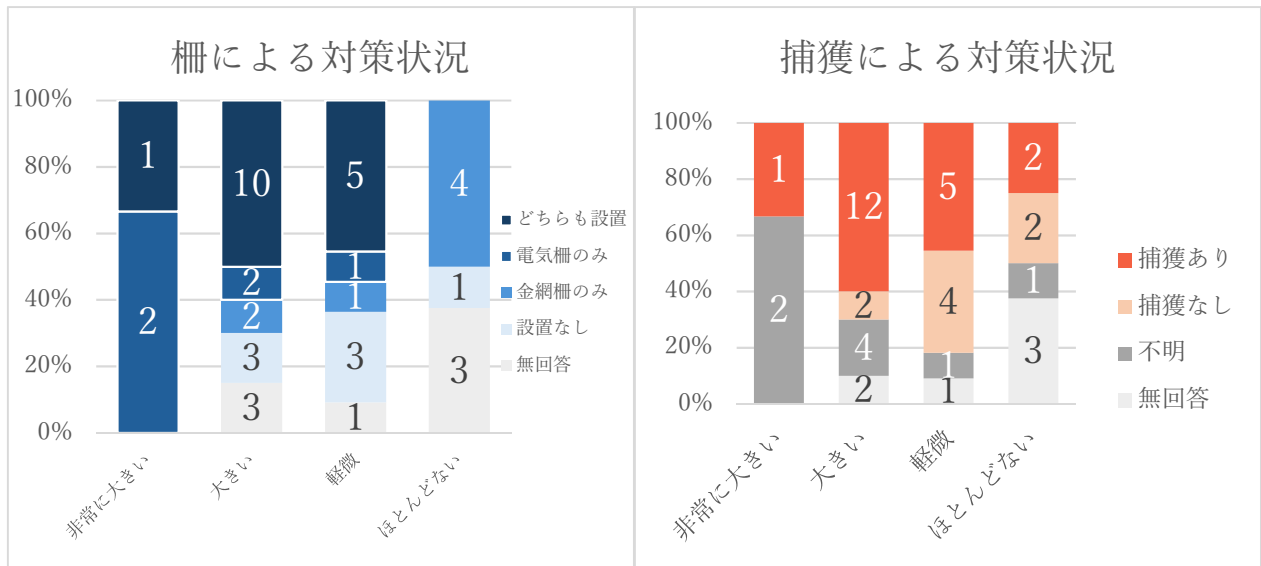


図 16. イノシシによる被害程度別の被害対策実施状況

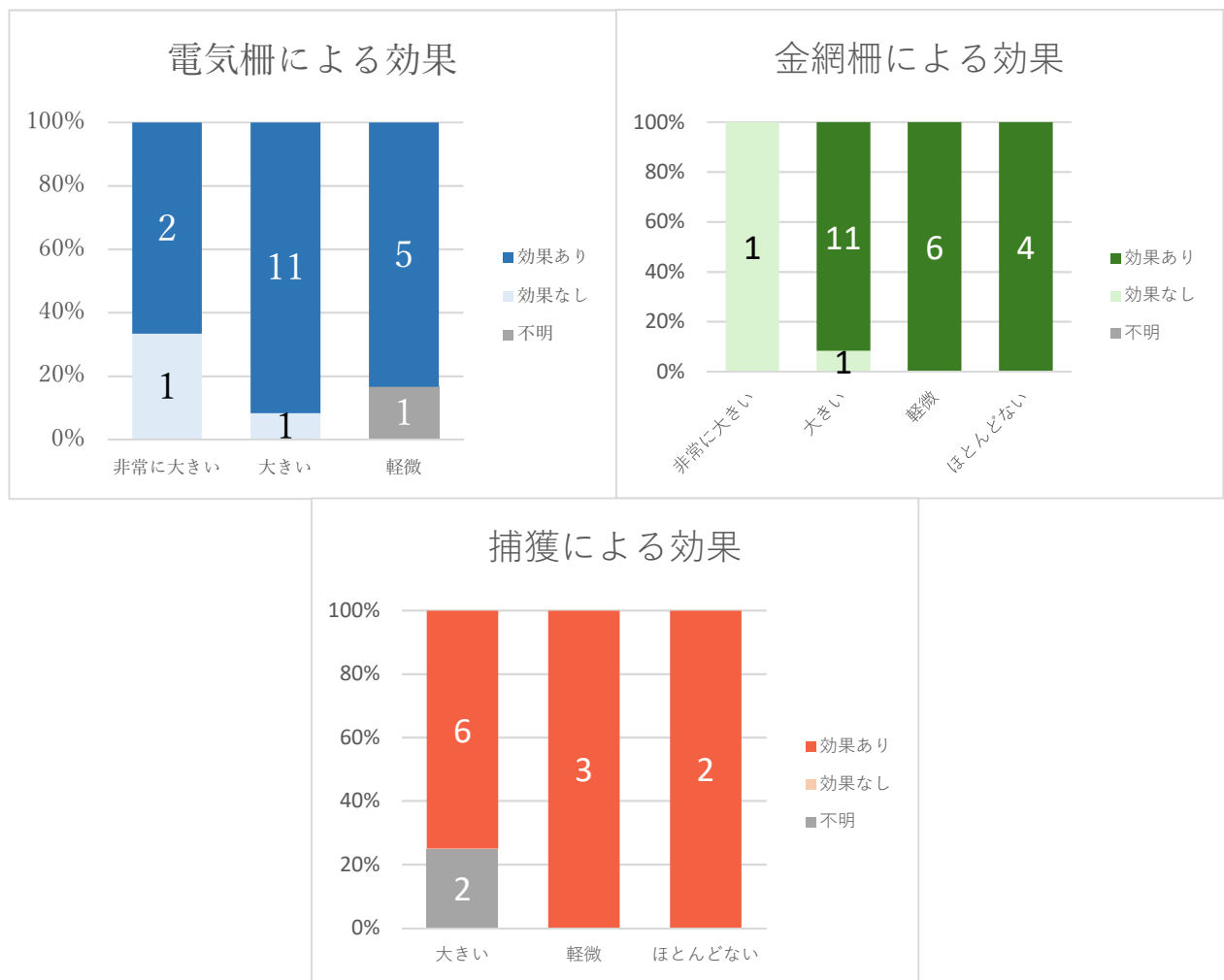


図 17. イノシシによる被害程度別の対策効果の有無

【ニホンジカ（図 18、図 19）】

被害の程度が「軽微」と回答した5つの小学校区では、計3小学校区で電気柵または金網柵が設置されており、効果について回答した小学校区の全てが効果を感じていた。一方、被害が「ほとんどない」と回答した12小学校区においては4小学校区が電気柵および金網柵のどちらも、電気柵のみの設置、金網柵のみをそれぞれ1小学校区ずつ設置していたが、効果があると回答したのはどちらの防護柵も2小学校区に留まった。

捕獲については、被害が「軽微」と回答した小学校区での実施はなかったが、「ほとんどない」と回答した小学校区では2小学校区で捕獲が実施されており、そのうち1小学校区が効果を実感していた。

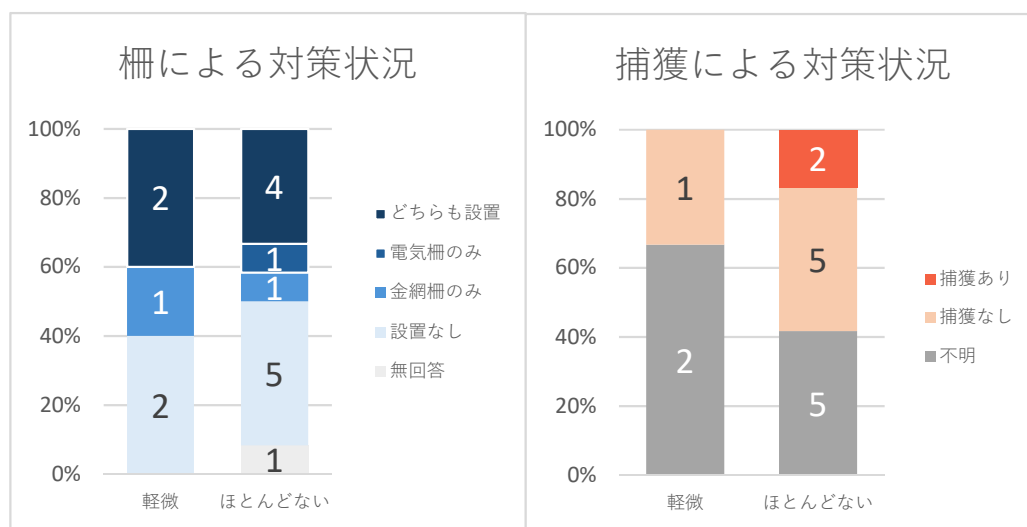


図 18. ニホンジカによる被害程度別の被害対策実施状況

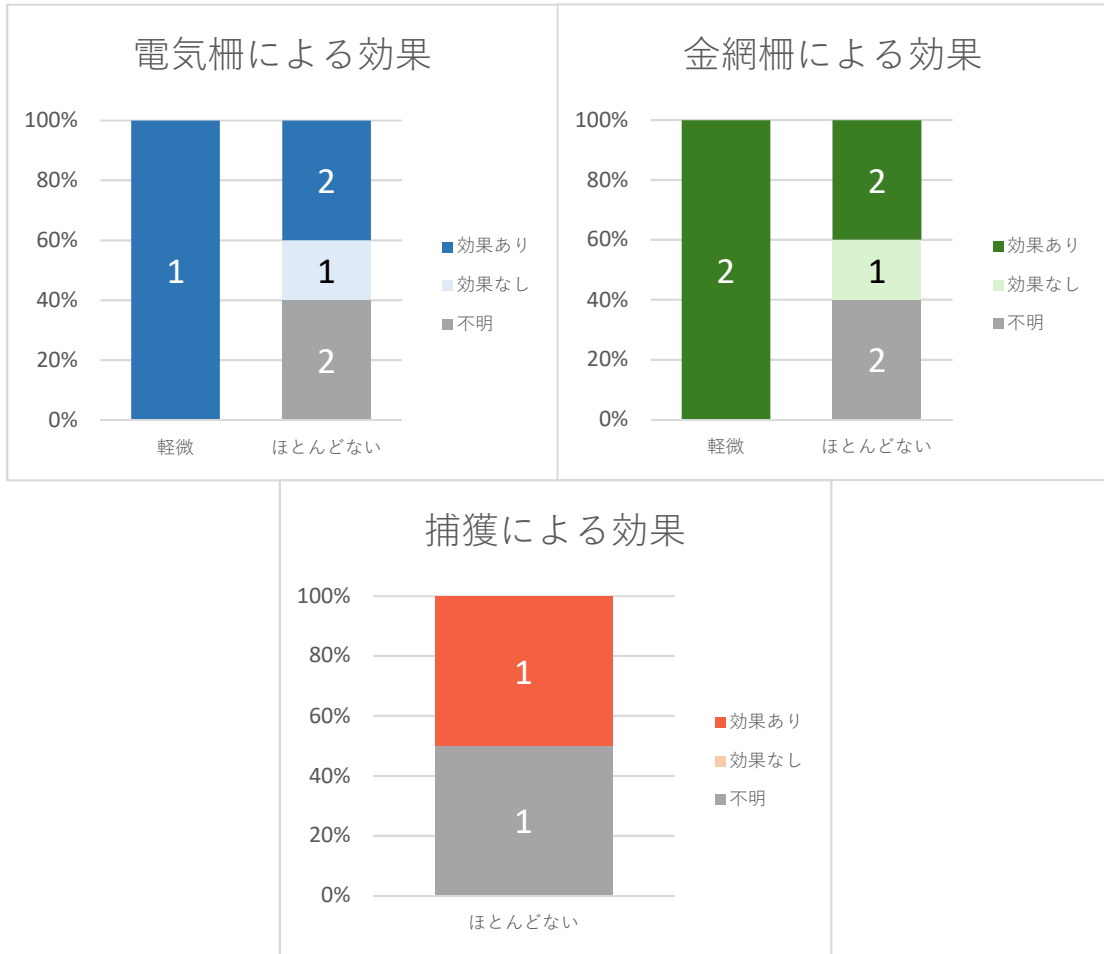


図 19. ニホンジカによる被害程度別の被害対策実施状況

【ニホンザル (図 20)】

ニホンザルも農業被害の程度が「非常に大きい」や「大きい」と回答した小学校区はなく、また被害を受けていると回答した小学校区は合計 6 小学校区と非常に少なかった。実際に対策を実施している小学校区はなかったことから、以下参考情報として、対策の実施状況のみ結果の図を掲載する。

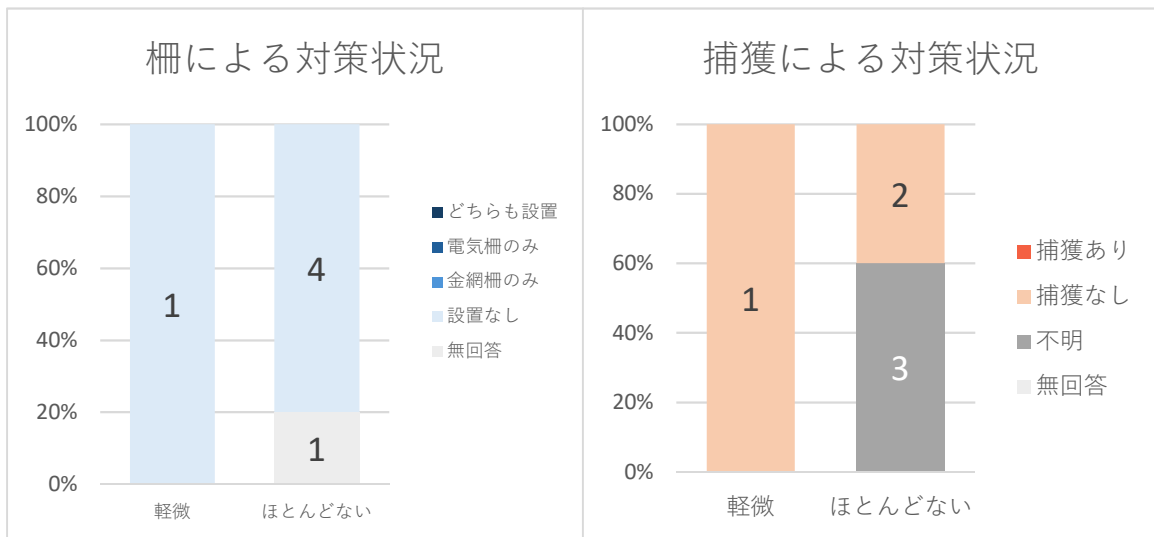


図 20. ニホンザルによる被害程度別の被害対策実施状況

【ヌートリア（図 21、図 22）】

被害の程度が「大きい」と回答した5つの小学校区のうち、1小学校区が電気柵による対策を実施していたが、設置の効果は実感されていなかった。被害が「軽微」と回答した37小学校区においては、計10小学校区で電気柵または金網柵が設置されていたが、効果を感じているのは金網柵を設置した1小学校区に留まった。

捕獲については、被害が「大きい」と回答した小学校区での実施は確認されなかった。被害が「軽微」と回答した小学校区では6小学校区、「ほとんどない」と回答した小学校区では1小学校区で捕獲が実施されているが、その効果については回答が得られなかった。

このことから、ヌートリアの被害対策においては、防護柵・捕獲ともに実施している小学校区があるものの、現時点ではその効果を実感するには至っていない現状が示された。

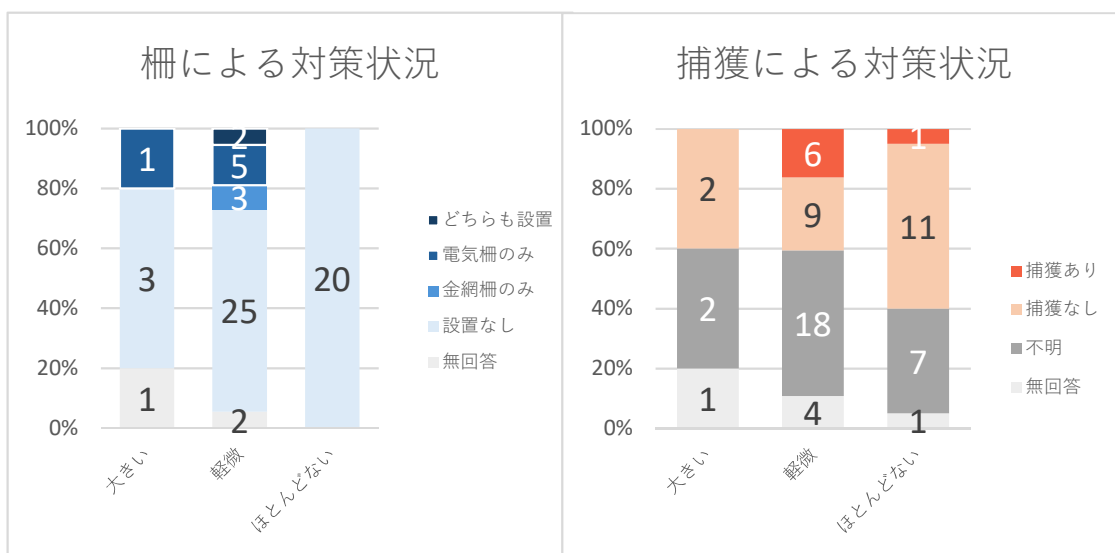


図 21. ヌートリアによる被害程度別の被害対策実施状況

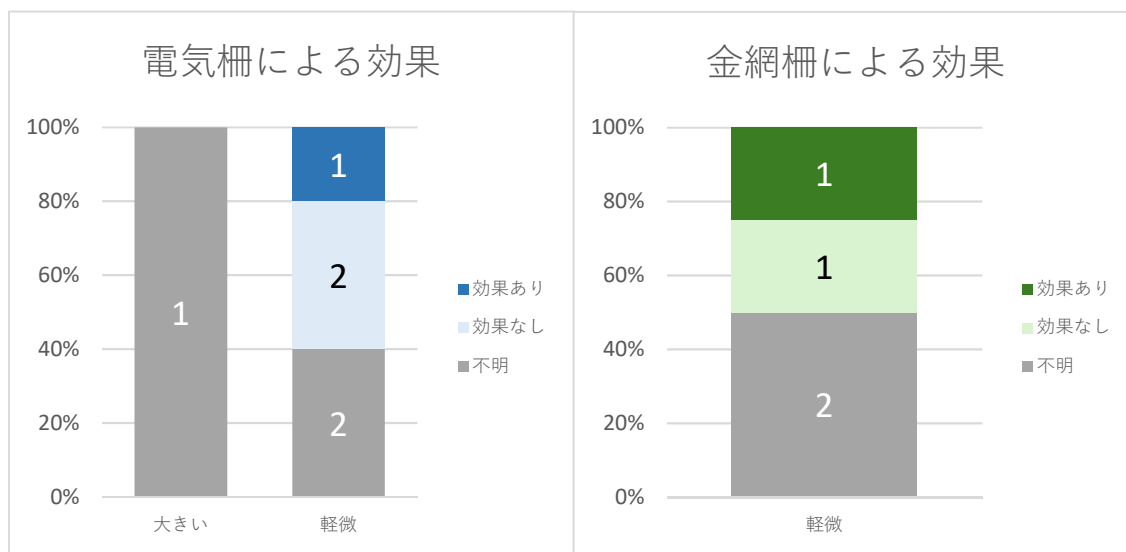


図 22. ヌートリアによる被害程度別の対策効果の有無

【ハクビシン（図 23、図 24）】

被害程度が「大きい」と回答した2つの小学校区では、1小学校区で金網柵が設置され、その効果を感じていた。被害が「軽微」と回答した14小学校区においては計5小学校区で防護柵が設置されていたが、電気柵で1小学校区が効果を認めた一方、金網柵については効果があると回答した小学校区はなかった。被害が「ほとんどない」と回答した小学校区においては1小学校区で金網柵が設置され、効果を感じていた。

捕獲については、被害が「軽微」と回答した小学校区において、3小学校区で実施されていたが、うち1小学校区では不明と回答しており、その他の小学校区では効果について回答が得られなかった。

このことから、ハクビシンの被害対策においてもヌートリア同様に、防護柵・捕獲ともに実施している小学校区があるものの、現時点ではその効果を実感するには至っていない現状が示された。

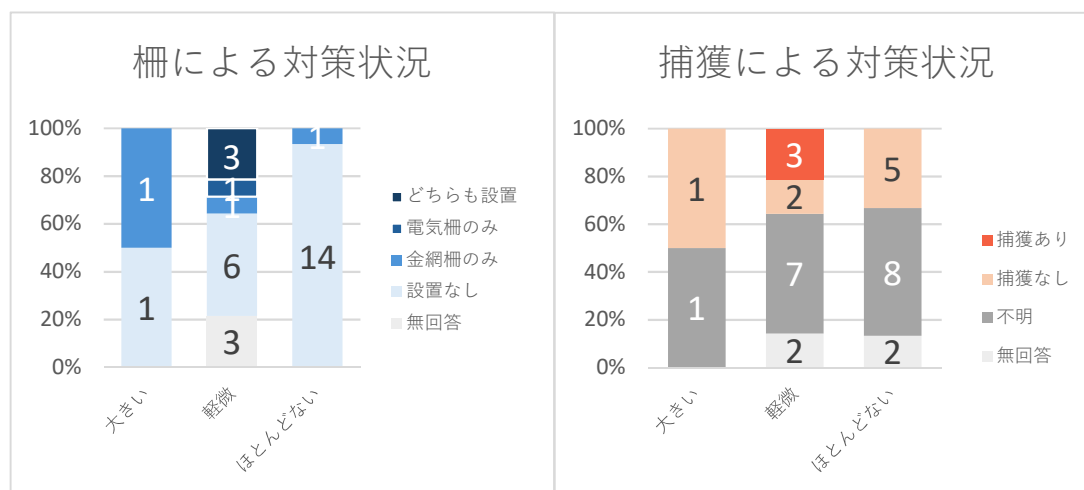


図 23. ハクビシンによる被害程度別の被害対策実施状況

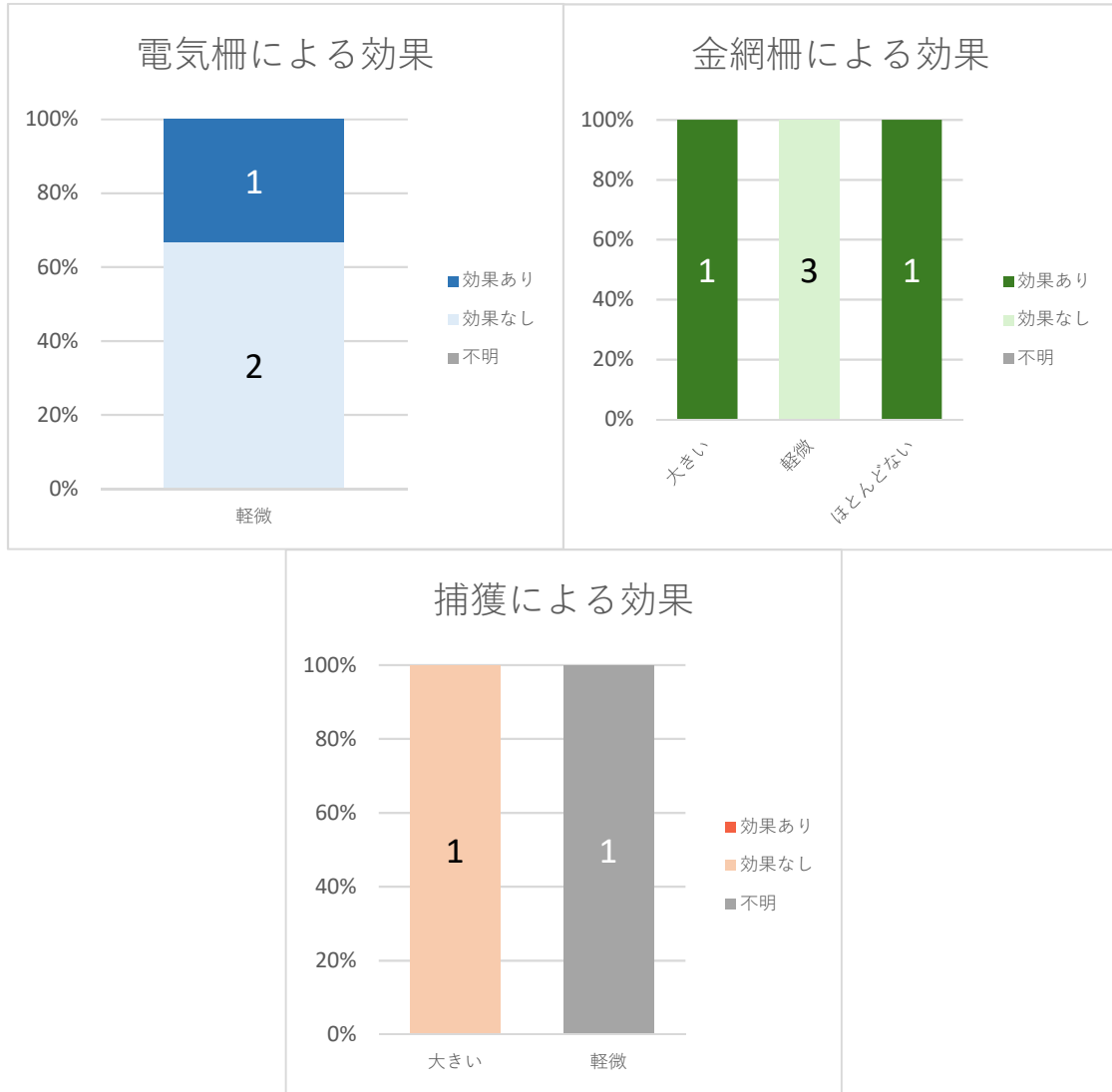


図 24. ハクビシンによる被害程度別の対策効果の有無

【アナグマ (図 25)】

農業被害の程度が「非常に大きい」や「大きい」と回答した小学校区はなかった。被害が「軽微」と回答した小学校区は 14 小学校区あり、そのうちの 3 小学校区で電気柵および金網柵のどちらも、1 小学校区で電気柵のみ、2 小学校区で金網柵のみを設置しており、5 小学校区が捕獲を実施していた。しかし、いずれの対策においても効果があると回答した小学校区はなかった。以下参考情報として、対策の実施状況のみ結果の図を掲載する。

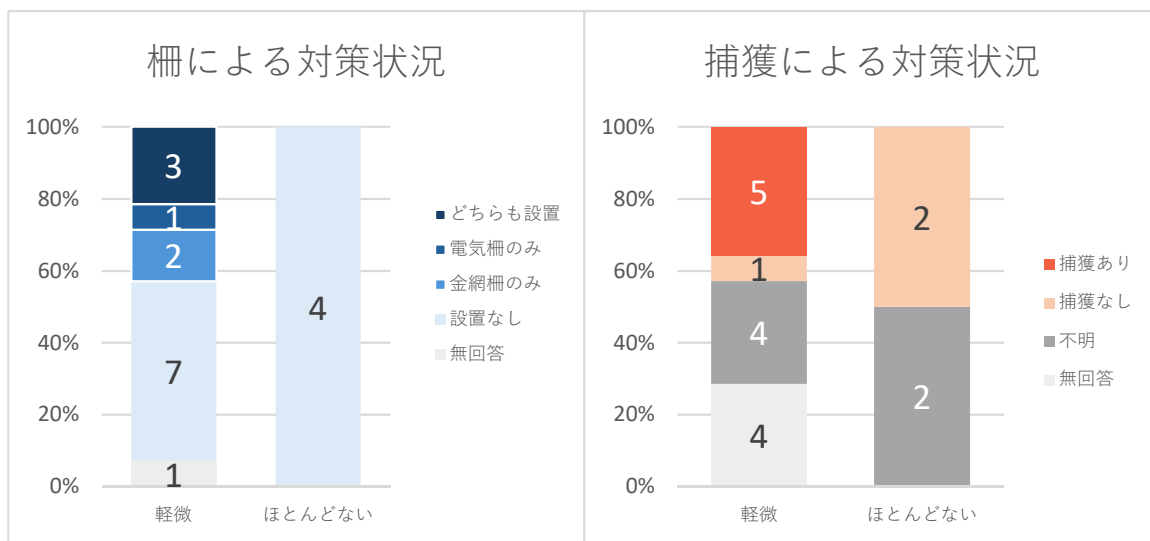


図 25. アナグラムによる被害程度別の被害対策実施状況

【アライグマ (図 26、図 27)】

被害程度が「非常に大きい」および「大きい」と回答した小学校区は確認されなかった。被害が「軽微」と回答した7小学校区においては、過半数の4小学校区で電気柵または金網柵が設置されていたが、効果を認めた小学校区は電気柵を設置した1小学校区のみであった。また、被害が「ほとんどない」と回答した5小学校区においても1小学校区で両方の柵を設置していたが、効果についての回答は得られなかった。

捕獲については、被害が「軽微」な小学校区と「ほとんどない」小学校区でそれぞれ1小学校区ずつ実施されていたが、いずれも効果についての回答は得られなかった。

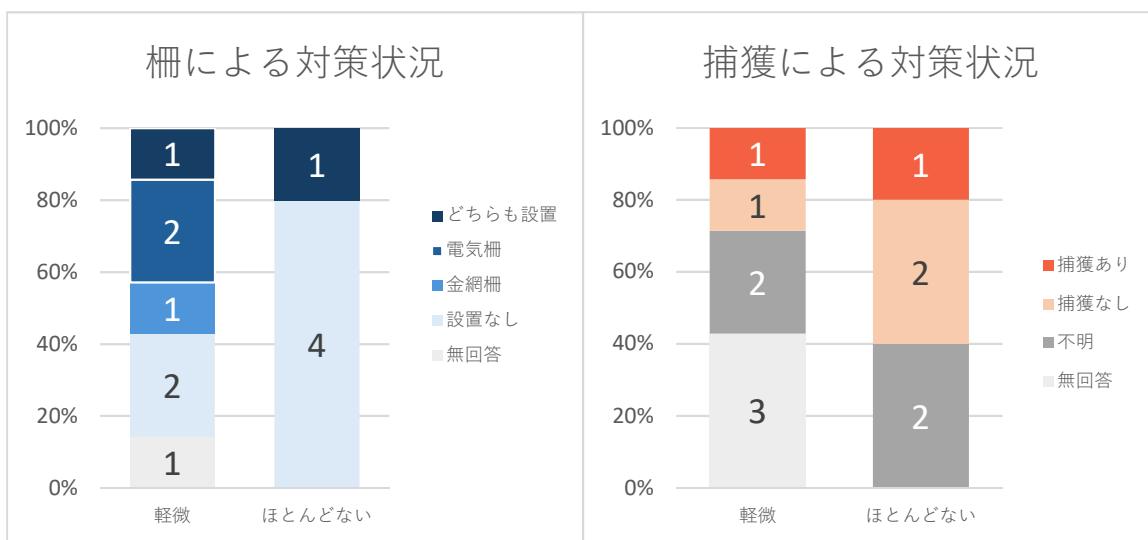


図 26. アライグマによる被害程度別の被害対策実施状況

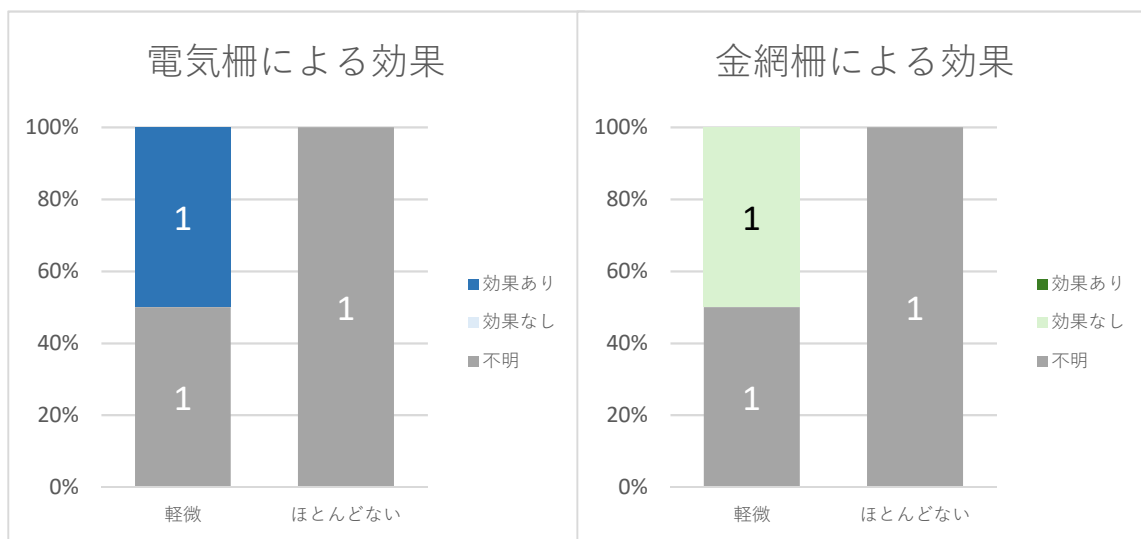


図 27. アライグマによる被害程度別の対策効果の有無

#### オ. 獣種ごとの被害作物の種類と発生状況

農業被害アンケートより、獣種ごとに13種の作物（水稲、麦、サツマイモ、タケノコ、トウモロコシ、玉ねぎ、イチゴ、スイカ、ブドウ、イチジク、梨、柿、桃）に対する被害発生有無の情報を収集した。市内におけるこれら作物に対する被害の状況を把握するため、獣種毎に空間補間図を作成した。なお、本アンケートで確認できるのは、各作物に対する被害の有無のみである。小学校区内で対象となる作物の耕作有無は不明であるため、「被害がない」理由が、耕作をしていないことか、そもそも被害がないのか、被害対策に成功して被害がないのかは判別できない。また、各作物での被害の程度は把握できていない。集計は下記の条件で実施し作図した。

##### 【被害あり】

対象獣種の「生息あり」かつ対象作物に被害がある（アンケート回答において該当作物に○がついている）

##### 【被害なし】

対象獣種の「生息あり」かつ対象作物に被害がない（アンケート回答において該当作物に○がついていない）

##### 【データなし】

対象獣種の「生息なし」

作物を野菜（水稲、麦、サツマイモ、タケノコ、トウモロコシ、玉ねぎ）と果物（イチゴ、スイカ、ブドウ、イチジク、梨、柿、モモ）の2グループに分け、被害発生の有無を表1および表2に示した。

表1. 令和7年度の獣種別の作物（野菜）被害を受けている小学校区数

獣種	水稻	麦	サツマイモ	タケノコ	トウモロコシ	玉ねぎ
イノシシ	29	2	21	22	2	0
ニホンジカ	4	0	0	0	0	0
ニホンザル	0	0	0	0	1	0
ヌートリア	37	3	5	0	1	0
ハクビシン	3	0	2	2	1	0
アナグマ	0	0	1	0	0	0
アライグマ	1	0	1	0	0	1

表2. 令和7年度の獣種別の作物（果実）被害を受けている小学校区数

獣種	イチゴ	スイカ	ブドウ	イチジク	梨	柿	モモ
イノシシ	0	5	9	0	4	4	9
ニホンジカ	0	0	1	2	0	1	0
ニホンザル	0	0	1	0	0	1	1
ヌートリア	2	4	0	0	0	0	0
ハクビシン	2	5	7	1	3	2	3
アナグマ	0	1	6	0	1	0	1
アライグマ	0	1	3	0	0	0	1

獣種によって、被害発生の有無は異なるが、水稻、サツマイモ、ブドウ、モモの4種類の作物は他の作物と比較して多くの獣種で被害が発生していた。また、獣種別にみると、ハクビシンが麦と玉ねぎを除く11作物、イノシシが玉ねぎ、イチゴ、イチジクを除く10作物と、他の獣種に対して多くの作物に被害が出ていた。

以下、獣種ごとに被害があった作物について結果を記す。

【イノシシ (図 28)】

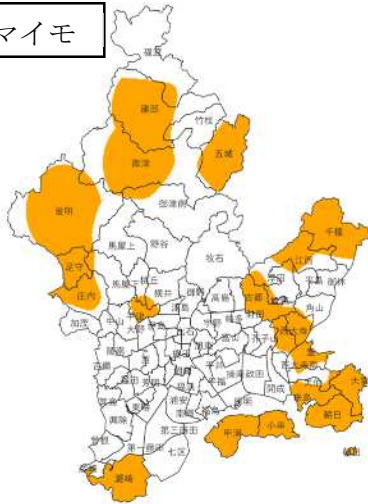
水稻



麦



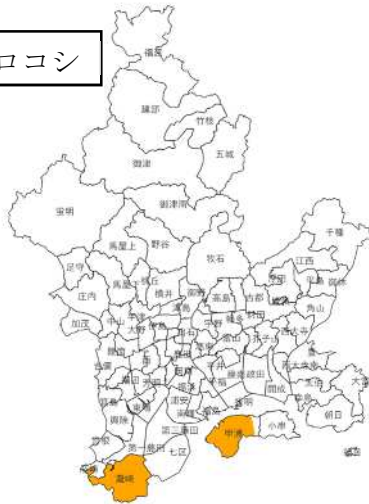
サツマイモ



タケノコ



トウモロコシ



スイカ

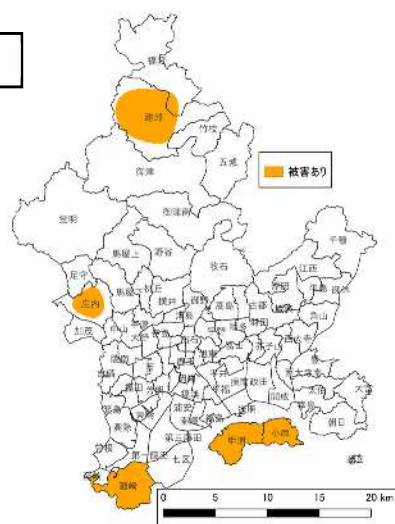
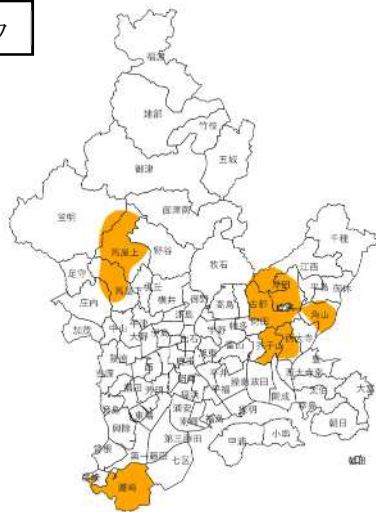
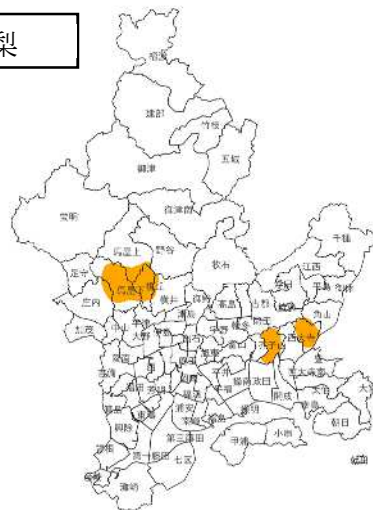


図 28-1. 農作物種ごとのイノシシによる被害が確認された地域

ブドウ



梨



柿



モモ



図 28-2. 農作物種ごとのイノシシによる被害が確認された地域

イノシシでは玉ねぎ、イチゴ、イチジクを除く 10 種で被害があると回答があった。イノシシによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった農作物は水稻であり、29 小学校区が回答した。次いで多かったのはタケノコで 22 小学校区、サツマイモで 21 小学校区が回答した。これらは市内中央部を除いて広く発生していた。

それ以外の作物は全て 10 小学校区以下での被害発生であり、モモおよびブドウが 9 小学校区、スイカが 5 小学校区、梨および柿が 4 小学校区、麦およびトウモロコシが 2 小学校区で回答された。

【ニホンジカ (図 29)】

ニホンジカで被害が発生していた作物は、水稻、ブドウ、イチジク、柿の 4 種であった。ニホンジカによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった作物は水稻で、4 小学校区が回答した。これらは北部の福渡、五城、北西部の蛍明、足守であっ

た。次いで、イチジクの被害が2小学校区で発生した。他の2種はいずれも1小学校区での発生であった。

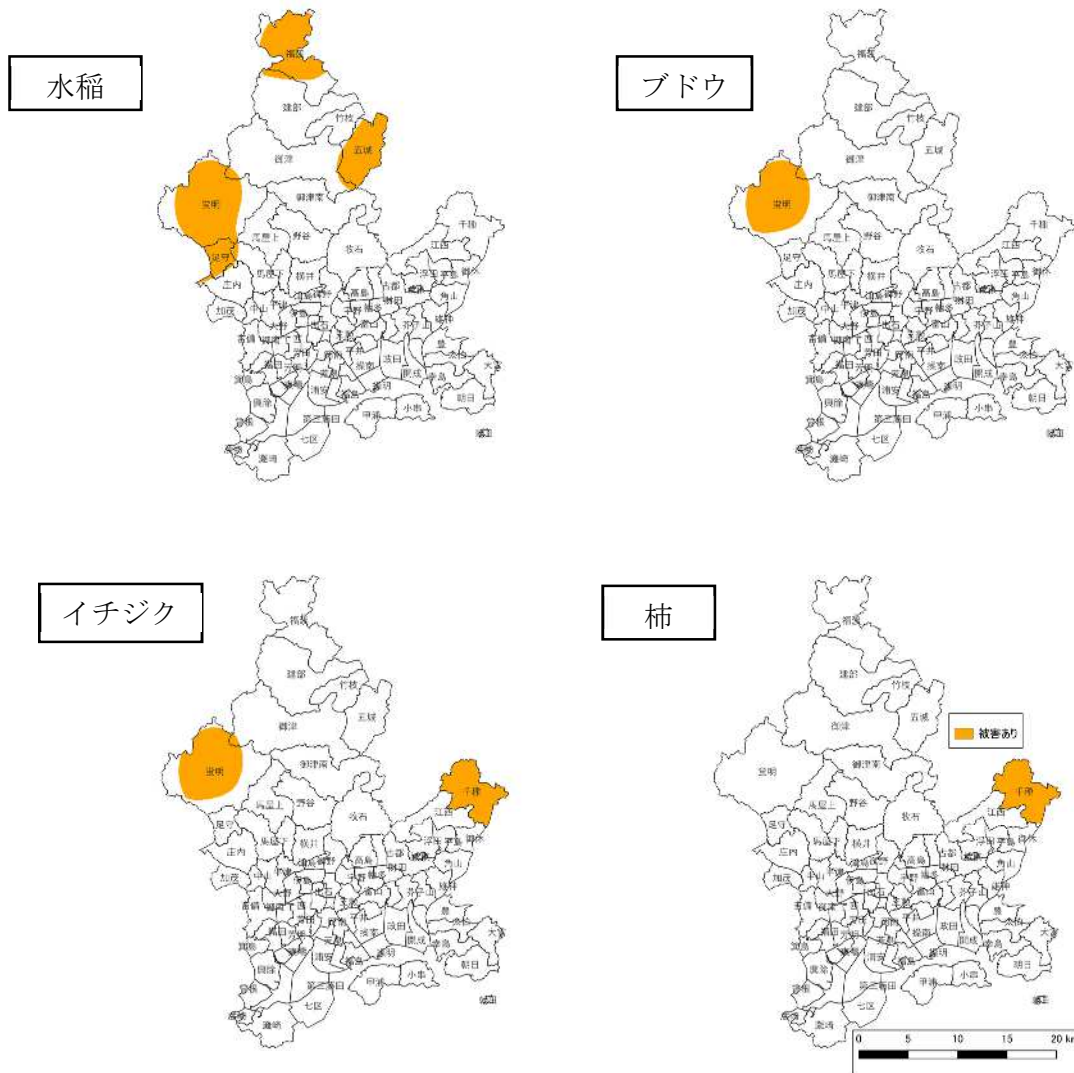


図 29. 農作物種ごとのニホンジカによる被害が確認された地域

【ニホンザル (図 30)】

ニホンザルでは、トウモロコシ、ブドウ、柿、モモの4種で被害があった。

すべての作物被害について、1小学校区で発生しており、トウモロコシは足守、ブドウ、柿およびモモについては千種で発生した。

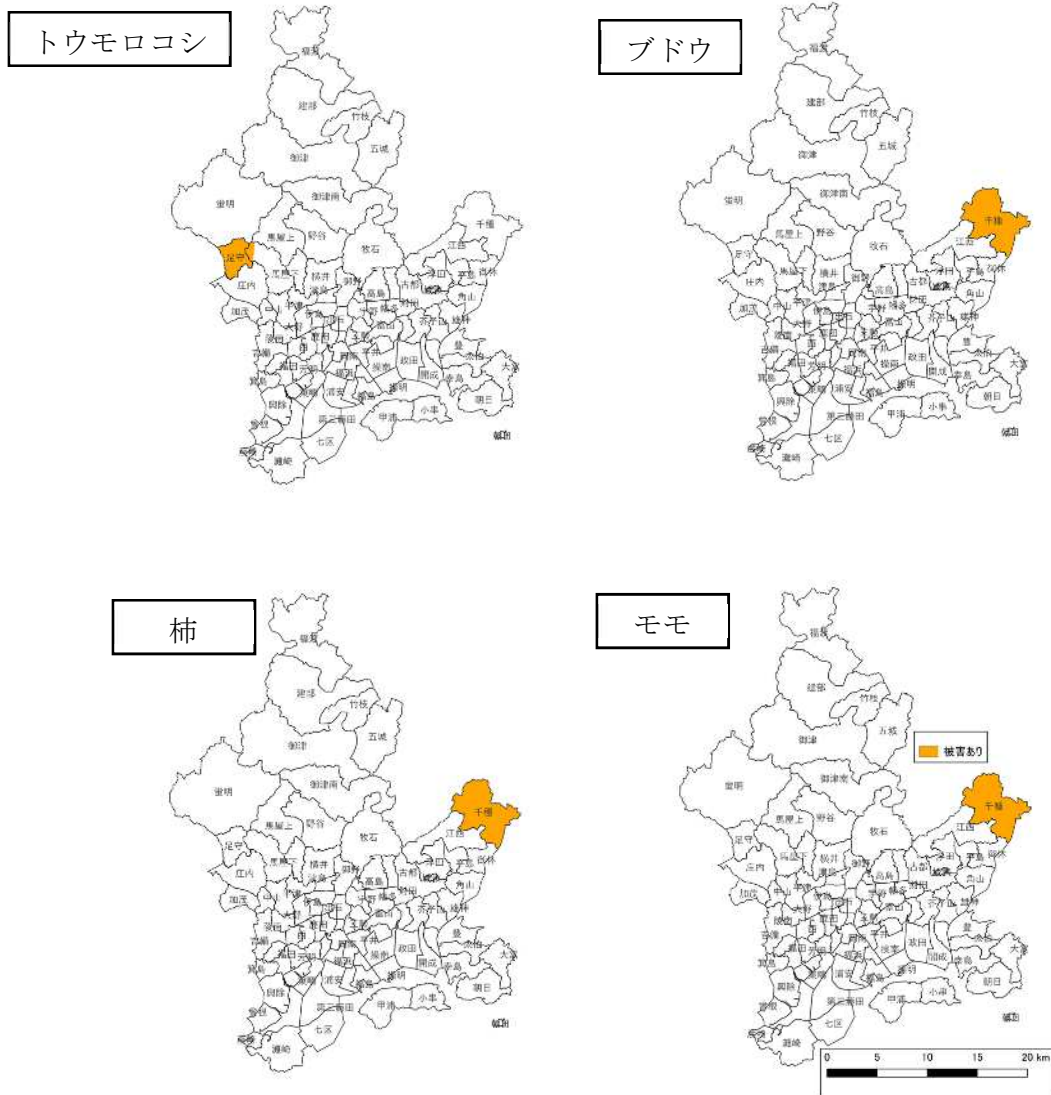


図 30. 農作物種ごとのニホンザルによる被害が確認された地域

【ヌートリア (図 31)】

ヌートリアは、水稲、麦、サツマイモ、トウモロコシ、イチゴ、スイカの6種で被害があった。ヌートリアによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった農作物は水稲であり、37小学校区が回答し、これらは市内で広く発生していた。

その他の作物で被害が発生していたのは、サツマイモで5小学校区、スイカで4小学校区、麦で3小学校区、イチゴで2小学校区、トウモロコシで1小学校区であった。

水稲



麦



サツマイモ



トウモロコシ



イチゴ



スイカ



図 31. 農作物種ごとのヌートリアによる被害が確認された地域

【ハクビシン（図 32）】

ハクビシンは、麦、玉ねぎを除いた 11 種で被害があった。ハクビシンによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった作物はブドウであり、7 小学校区が回答した。北部では横井、東部では、浮田、芥子山、角山、古都、西大寺、北西部では馬屋上小学校区で確認された。

その他の作物で被害が発生していたのはスイカで 5 小学校区、水稻、梨、モモで 3 小学校区、サツマイモ、タケノコ、イチゴおよび柿で 2 小学校区、トウモロコシおよびイチジクで 1 小学校区が回答した。

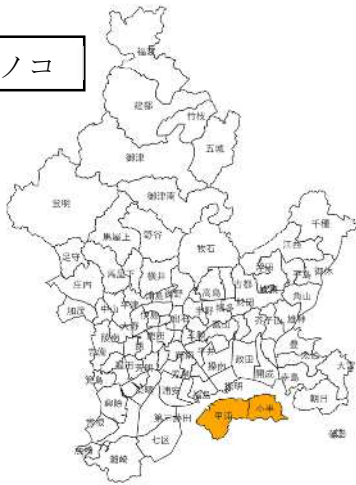
水稲



サツマイモ



タケノコ



トウモロコシ



イチゴ



スイカ

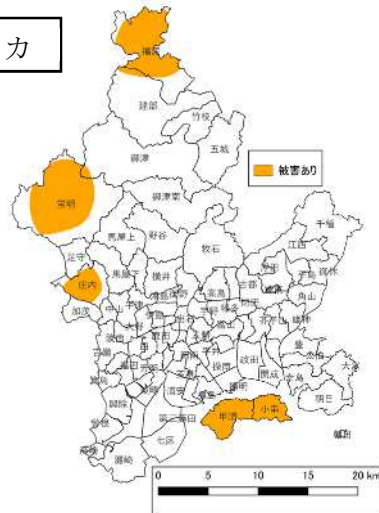
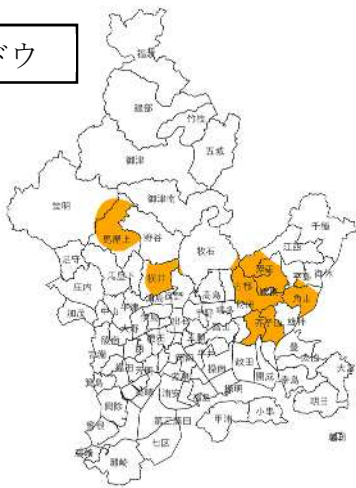


図 32-1. 農作物種ごとのハクビシンによる被害が確認された地域

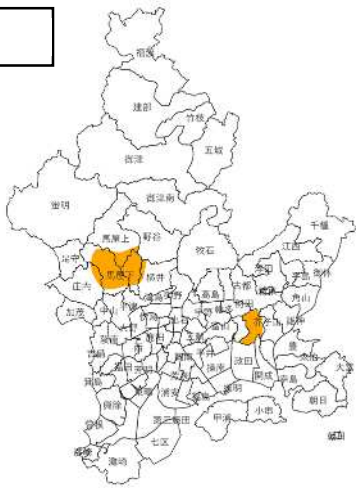
ブドウ



イチジク



梨



柿



モモ



図 32-2. 農作物種ごとのハクビシンによる被害が確認された地域

【アライグマ（図33）】

アライグマでは、水稻、サツマイモ、玉ねぎ、スイカ、ブドウ、モモの6種で被害があった。アライグマによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった作物はブドウであり、3小学校区が回答した。他の種の作物被害については、1小学校区が回答した。

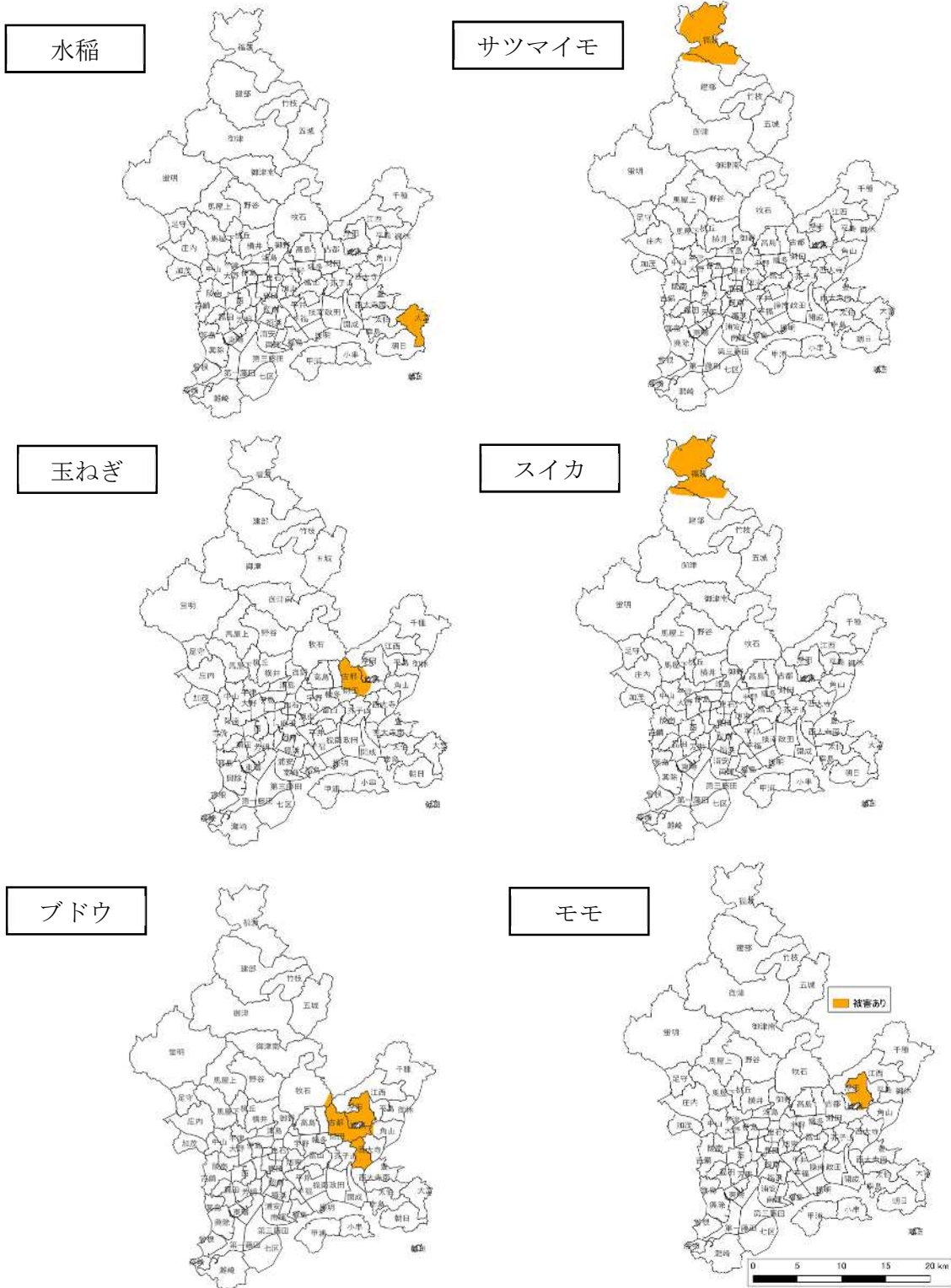


図 33. 農作物種ごとのアライグマによる被害が確認された地域

【アナグマ (図 34)】

アナグマでは、サツマイモ、スイカ、ブドウ、梨、モモの5種で被害があった。アナグマによる被害が発生していると回答した小学校区が最も多かった作物はブドウであり、6小学校区が回答した。他の種の作物被害については、1小学校区が回答した。

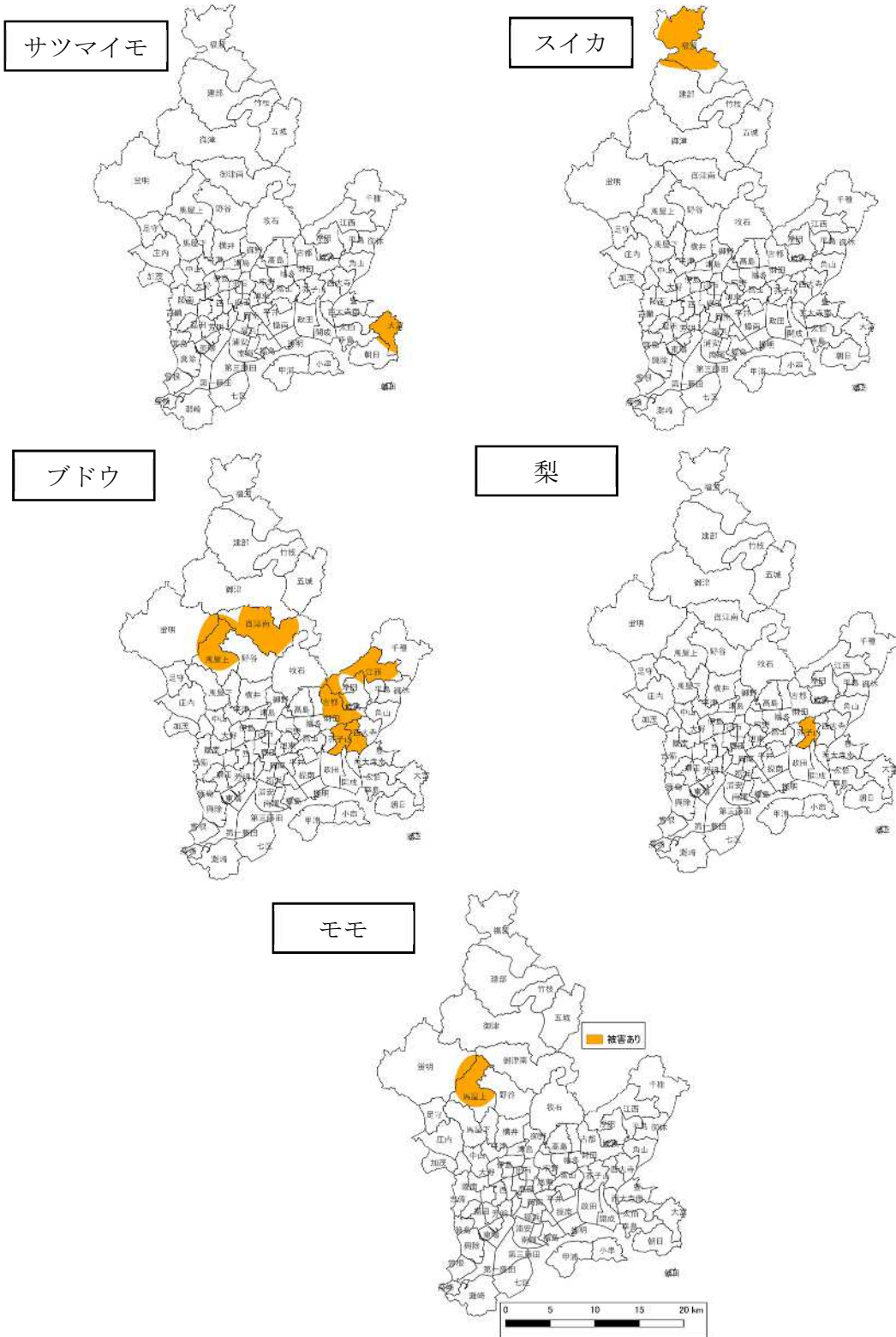


図 34. 農作物種ごとのアナグマによる被害が確認された地域

#### カ. 有害捕獲データの分析

発注者から提供された令和7年1月～令和7年12月までの有害捕獲データを集計し、獣種および区ごとの捕獲数を表4に示した。また、捕獲数が多かった5獣種（イノシシ、ニホンジカ、ヌートリア、アナグマ、カラス）については図33に区ごとの捕獲数をグラフで示した。この5獣種の捕獲合計数は3,315頭羽であり、前捕獲数（3,505頭羽）の大部分を占めていた。

4獣種の中でもイノシシの捕獲数が最も多く2,598頭であり、北区で751頭、東区1,249頭と、2区で全区合計の8割近くが捕獲されていた。農作物被害等アンケートで、イノシシの目撃について「よく見る」、「たまに見る」と回答した小学校区や、農業被害増減が「非常に大きい」または「大きい」と回答した小学校区、被害が増加していると回答した小学校区の多くが北区と東区の小学校区であった（図1および図8）。これらの区は例年被害が大きい小学校区が多く、被害防止のために積極的に捕獲に取り組んでいる。その結果としてイノシシの捕獲数が他の区よりも多くなったと考えられる。

ニホンジカは、捕獲があったのは北区と東区の2区であり、北区で126頭、東区で119頭の合計245頭が捕獲された。今年度は「よく見る」と回答した小学校区はなかったが、過去3年で目撃があり、また、「軽微」以上の被害程度が確認されている北区および東区において捕獲がされていた。

ヌートリアの捕獲頭数は、イノシシに次いで多く305頭であった。令和7年度は北区、東区および南区にてそれぞれ100頭程度が捕獲された。ヌートリアは市内全域に生息しており、被害増減を見ると北区および東区で被害増減について「増えた」と回答した小学校区があった。この2区では捕獲数も増加していたことから、今後も被害が増加する可能性がある。

カラスの捕獲羽数は167羽で、中区の捕獲が最も多く158羽と全捕獲羽数の9割以上を占めた。しかし、全体の捕獲数は昨年度の306羽から5割近く減少しており、全ての区で捕獲数が減少した。

表4. 令和7年（1月から12月）における各獣種の区ごとの捕獲数

獣種	北区	中区	東区	南区	総計
イノシシ	751	125	1,249	473	2,598
ニホンジカ	126	0	119	0	245
ヌートリア	78	8	106	113	305
ハクビシン	5	0	4	0	9
アライグマ	3	0	3	0	6
アナグマ	59	5	83	1	148
カワウ	8	0	4	0	12
カラス	3	158	6	0	167
カモ	14	0	0	1	15
合計	1,047	296	1,574	588	3,505

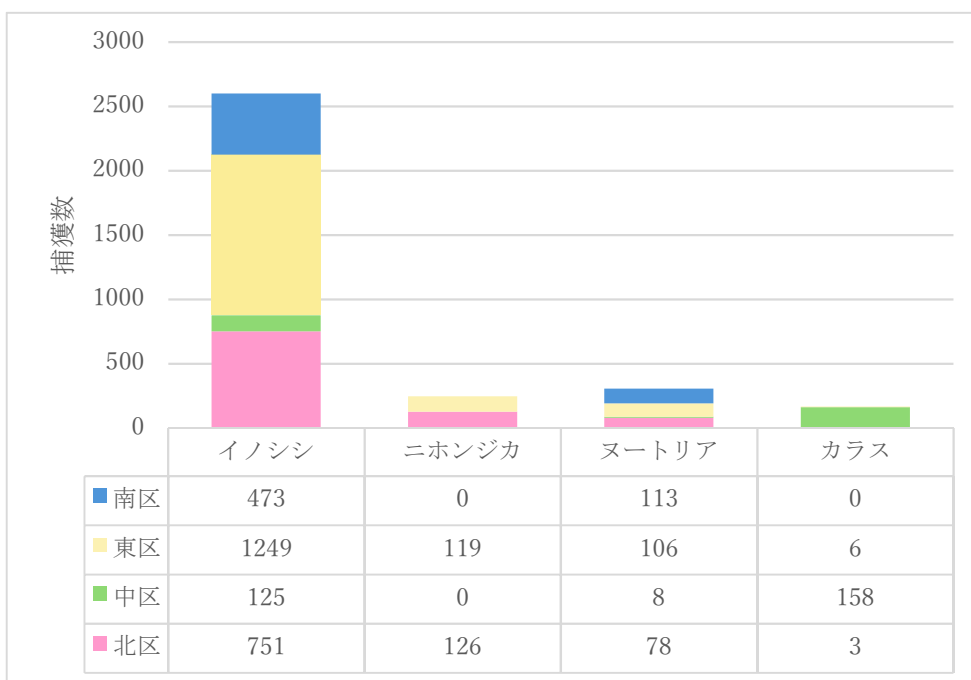


図 35. 令和 6 年度に捕獲数が多かった 4 鳥獣種の捕獲数の区ごとの内訳

### (3) 農作物被害等のアンケートに基づくヒアリング

昨年度および今年度のアンケートにおいて、イノシシによる被害程度が「大きい」または「深刻（非常に大きい）」と回答した 21 小学校区を対象とした。現場の状況に即した詳細な回答を得るため、アンケート回答者本人へのヒアリングを実施した。

今年度のアンケートにてイノシシの被害が「非常に大きい」と回答した小学校区は蛍明小学校、小串小学校および甲浦小学校区の 3 小学校区であった。これらの小学校区ではいずれも、1 年中イノシシの被害が発生しており、居住地への侵入も確認していた。いずれの小学校区でも被害対策として既に電気柵や金網柵の設置、および捕獲を実施しており、今後取り組むべき対策として、追い払いの強化や地域ぐるみの捕獲体制の構築が挙げられた。

被害が「大きい」と回答した小学校区も、多くは既に防護柵の設置あるいは捕獲を実施済みであったが、灘崎小学校区（川張、片岡）においては防護柵の設置のみであった。この小学校区では農業をしていない住民もいるため、住民主体での対策は難しいという回答が得られた。このことから、本事業の支援対象地区の選定においては、実際に困っている住民がどれほどいるか、という観点も十分に考慮すべきであると考えられる。その他の地域では今後取り組むべき対策として、柵の追加や捕獲の強化（捕獲従事者の増員や檻の増設）といった現在の取り組みの強化が挙げられた。

また、今年度のヒアリングでは、本事業の支援の希望について意見を聞いた。支援を希望する小学校区は蛍明小学校区（山上、上高田、石妻）、福渡小学校区の 2 小学校区であった。他の小学校区では既に類似の取り組みを行っているといった理由から希望しないという回答を得た。今年度被害が「非常に大きい」と回答した小串小学校および甲浦小学校区では捕獲体制の未整備を理由に希望しないという回答を得たが、本事業が推進する ICT を活用した捕獲支援は、まさに地域での体制構築・実施による被害抑制を目的とするものである。したがって、現時点で体制が不十分なこれらの地域こそ、積極的に支援対象とすべきであると考えられる。

表5. ヒアリング対象地区および組織

	ヒアリング対象地区	被害程度	
		令和6年度	令和7年度
1	桃丘小学校区（佐山,芳賀）	大きい	大きい
2	馬屋下小学校区（大窪,松尾,長野,福谷,横尾）	大きい	大きい
3	馬屋上小学校区（田原,富吉,日応寺,三和）	深刻	大きい
4	蛍明小学校区（河原,真星,床田,苔山,東山内,間倉,西山内,掛畑）	大きい	大きい
5	蛍明小学校区（山上,上高田,石妻）	大きい	大きい
6	蛍明小学校区（大井,粟井）	大きい	非常に大きい
7	御津小学校区（下田,高津,宇甘,中泉,金川,草生,鹿瀬,勝尾,紙工,虎倉）	大きい	大きい
8	五城小学校区（矢知,平岡西,新庄,伊田,矢原,中畑,石上）	大きい	大きい
9	福渡小学校区（鶴田,和田南,角石畝,角石谷,三明寺）	大きい	大きい
10	甲浦小学校区（飽浦,北浦,郡,宮浦）	深刻	非常に大きい
11	小串小学校区（阿津,小串）	深刻	非常に大きい
12	灘崎小学校区（川張,片岡）	大きい	大きい
13	灘崎小学校区（迫川,奥迫川）	深刻	大きい
14	雄神小学校区（西降寺,福治,富崎,久保,河本町）	大きい	大きい
15	古都小学校区（穴甘,矢津,古都宿,藤井,鉄,古都南方）	大きい	大きい
16	幸島小学校区（西幸西,東幸西,水門町,北幸田,東幸崎,南水門町,幸地崎町）	大きい	大きい
17	太伯小学校区（乙子,神崎町,邑久郷）	大きい	大きい
18	大宮小学校区（下阿知,上阿知,千手,西大寺一宮,宿毛）	深刻	大きい
19	角山小学校区（竹原,才崎,内ヶ原,百枝月）	大きい	大きい
20	江西小学校区（瀬戸町笹岡,瀬戸町観音寺,瀬戸町宿奥,瀬戸町菊山,瀬戸町森末,瀬戸町寺地,瀬戸町光明谷）	大きい	大きい
21	千種小学校区（瀬戸町二日市,瀬戸町万富,瀬戸町大井,瀬戸町鍛冶屋,瀬戸町塩納,瀬戸町宗堂,瀬戸町坂根,瀬戸町南方,瀬戸町弓削）	大きい	大きい

表6. ヒアリング結果一覧  
 グレー背景の地区は、ヒアリングが実施できなかつた地区  
 ヒアリング対象者が同じ場合は異なる地区であっても同一の回答を記録した

No.	ヒアリング実施地区	特に被害の多い獣種	被害の発生時期	被害が顕著な地域	現在取り組んでいる被害対策	今後取り組むべき対策	支援希望の意思	備考・回答者からの意見
1	稗丘小学校区 (佐山, 芳賀)	イノシシ	1年中	佐山, 芳賀	電気柵, 金網柵, 捕獲	捕獲者及び補償額の増加	判断できない (知らない管理者に聞かないと回答できない)	
2	馬屋下小学校区 (大窪, 松尾, 長野, 福谷, 穂尾)	イノシシ	1年中	大窪, 松尾, 長野, 福谷, 穂尾	電気柵, 金網柵, 捕獲	捕獲者及び補償額の増加	判断できない (知らない管理者に聞かないと回答できない)	
3	馬屋上小学校区 (田原, 菑吉, 日柿寺, 三和)	イノシシ	1年中 法面等の廻り返し, 温室の破壊 桃の枝折りや苗木の掘り返し	田原, 菑吉	電気柵, 金網柵, 捕獲	環境整備: イノシシが潜む場所をなくすために環境整備を考えるが, 高齢化が進んでいるため集落をあげての対策は難しい	希望しない (わなの管理が難しい)	対策で設置している柵の効果が低下していると感じている。また、週草等は侵入のために設置されると修理が必要になるため労力とコストがかかる。 令和7年度個人として被害額は数万円程度であるが, 株を折られると次年度以降の収穫量が低下するため半年度の経営額等で考えるものではない。
4	蛭明小学校区 (河原, 真屋, 庄田, 苔山, 栗山内, 間倉, 西山内, 掛畑)							
5	旧岩田村 (山上, 上高田, 石妻)	イノシシ, カラス	イノシシ: 10月 (収穫前の水管被害) カラス: 3月 (桃の花をつ)	イノシシ: 山上, 上高田, 石妻 カラス: 山上, 上高田, 石妻	イノシシ: 電気柵, 金網柵, 捕獲 カラス: 空砲 (銃声, 煙火等)	イノシシ: 金網ネット カラス: 対策がわからない	希望する	
6	蛭明小学校区 (大井, 栗井)	イノシシ, カラス	イノシシ: 1年中 カラス: 5月, 6月 (煙や苗への被害)	イノシシ: 大井, 栗井, 地内, 高田, 日近 カラス: 大井	イノシシ: 電気柵, 金網柵, 捕獲 カラス: カイト鷹	イノシシ: 煙火 カラス: カイト鷹の追加	希望しない (支援と類似のことを地元有志が既に実施している)	
7	御津小学校区 (下田, 高津, 宇甘, 中泉, 金山, 草生, 鹿瀬, 勝尾, 越工, 虎倉)	イノシシ, モグラ	イノシシ: 1年中 モグラ: 1年中 (畑に穴をあける被害)	イノシシ: 虎倉 モグラ: 小学校区全域	イノシシ: 電柵, 金網, 捕獲 モグラ: なし	モグラ: 対策全般 捕獲ができない, 対策方法が分からない	判断できない (個人としては希望しない。こうしたことは町内会に聞くべき)	現状, 担当範囲が広く被害の実態を把握するのが難しい。岡山市と連携して町内会単位でアンケート調査をするべき。

No.	ヒアリング実施地区	特に改善の多い事項	被害の発生時期	被害が顕著な地域	現在取り組んでいる被害対策	今後取り組むべき対策	支援希望の意思	備考・回答者からの意見
8	五坂小学校区(茨和、平野西、新正、寺田、赤島、中瀬、石上)	イノシシ、シカ	イノシシ：5月～10月 シカ：1年中	イノシシ・シカ：石上、新正	現在取り組んでいる被害対策 電気柵、金網柵、捕獲	今後取り組むべき対策 捕獲者の増加 環境整備：耕作放棄地を作らない、家の周りの草刈りを行う、里山の再生、山をきれいに管理するなど	支援希望の意思 希望しない (地区内に個人で捕獲を実施している方がいるため)	備考・回答者からの意見 シカが近年ものすごく増えたと感じる。 シカの増加が、豚熱が不明だが、今年度は冬にイノシシも思ななかった。
9	福渡小学校区(鶴田、和田南、烏石、鮎、角石谷、三朝寺)	イノシシ、ヌートリア	イノシシ：5月 ヌートリア：3～5月	角石谷の全域	電気柵、金網柵、捕獲	特になし	支援希望の意思 希望する (などと福渡カメラを貸してもらえるなら希望)	
10	平瀬小学校区(飯浦、北津、瓢、宮浦)	イノシシ	1年中 町中への出没、住居内への侵入	飯浦、北津、瓢、宮浦	電気柵、金網柵、捕獲	住民主体の捕獲体制の構築	支援希望の意思 希望しない (捕獲体制がないと、支援を受けてもうまくいかないと考えている)	鳥獣保護地区の指定を外してほしい。 山火事以降、イノシシの出没が増えた気がする。 また、住居侵入の恐れがあるため、自宅周辺に柵を設置している住民もいる。
11	小島小学校区(阿津、小串)	イノシシ	1年中 町中への出没、住居内への侵入	阿津、小串	電気柵、金網柵、捕獲	住民主体の捕獲体制の構築	支援希望の意思 希望しない (捕獲体制がないと、支援を受けてもうまくいかないと考えている)	鳥獣保護地区の指定を外してほしい。 山火事以降、イノシシの出没が増えた気がする。 また、住居侵入の恐れがあるため、自宅周辺に柵を設置している住民もいる。
12	運崎小学校区(川瀬、片岡)	イノシシ	9月、10月	川瀬、片岡	電気柵、金網柵	特になし；運をしていない住民もいるため果実で対策作業を行うことが難しいと考えている	支援希望の意思 判断できない (町内会長が判断するべき)	市から各町内会長に情報を送ずという方法でアンケート調査やオンライン調査を行うって欲しいと回答。
13	運崎小学校区(三川、奥迫川)	イノシシ	1年中	三川、奥迫川、日瀬村町会	金網柵、捕獲	金網柵の設置 電気柵は効果がないため	支援希望の意思 判断できない (個人としては希望するが地区としての判断はできない)	
14	蔵押小学校区(田陣寺、竜治、宮崎、久保、河本町)	イノシシ、カラス	イノシシ：7月下旬～10月(駐を兼ず) カラス：7月下旬～10月頃(ブドウ被害)	イノシシ：河本、吉田、北山、山崎 カラス：龍治、運達寺	イノシシ：電気柵、金網柵、捕獲 カラス：防鳥ネット	イノシシ：捕獲罠の設置 吉田と蔵ノ口地区の町内会で捕獲罠の購入が決まっている カラス：防鳥ネット	支援希望の意思 判断できない (実際に被害を受けている地域住民が実態についてどのように考えているのか分からない)	
15	古郡小学校区(穴甘、矢津、吉野崎、勝六、古郡南が)	イノシシ	5月～10月 水害とブドウの被害	古郡南、勝井	防護柵(種類不明)、捕獲	防護柵の強化	支援希望の意思 判断できない	

No.	ヒアリング実施地区	特に被害の多い獣種	被害の発生時期	被害が顕著な地域	現在取り返している被害対策	今後取り返すべき対策	支援希望の意思	備考・回答者からの意見
16	華島小学校区 (西草野、東草野、水門町、北幸、イノシシ、 日、東幸崎、南水門町、幸地崎、カモ 町)	イノシシ、 カモ	イノシシ：1年中 カモ：1～2月（まの芽の食害）	イノシシ：担当地域の全域	イノシシ：電気柵、金網柵、ネット柵、捕獲 カモ：黒ビニール袋の吊り下げ	イノシシ：追加の柵設置 カモ：現状の対策継続 効果がないので困っている	希望しない (既に地域内で捕獲活動が行われているため)	
17	大杉小学校区(乙子、神崎町、邑久郷)							
18	大宮小学校区 (下月白、上月白、千手、西大寺一宮、宿毛)							
19	青山小学校区(竹原、才崎、内ヶ原、百枝月)							
20	江西小学校区(瀬戸町笹原、瀬戸町観音寺、瀬戸町龍興、瀬戸町藤、イノシシ、山、瀬戸町森末、瀬戸町寺地、瀬戸町山、瀬戸町光明寺)	イノシシ、 ヌートリア	イノシシ：9月中旬～11月中旬 ヌートリア：6月下旬～7月下旬	イノシシ：寺地、笹原、信興、森末、瀧山 ヌートリア：寺地、笹原、信興	イノシシ：電気柵、金網柵、捕獲 ヌートリア：柵になし	現在の対策継続：すでに出ることはしていると考えられている	判断できない (町内会に聞いて欲しい、農業推進委員会では各地域の事情について把握しかなるため)	
21	千種小学校区(瀬戸町二日市、瀬戸町万重、瀬戸町大井、瀬戸町殿治屋、瀬戸町塩越、瀬戸町宗堂、瀬戸町坂原、瀬戸町南方、瀬戸町戸副)	イノシシ	10月	瀬戸町大井、瀬戸町塩越、瀬戸町宗堂、瀬戸町殿治屋	電気柵、金網柵、捕獲	回答できない：各地域によって必要な対策は異なり、各地域で判断するべきことである。農業推進委員として、回答することはない	判断できない (捕獲技術支援については各町内会長が判断すること)	

#### (4) 考察

##### ① 岡山市において対策を優先すべき獣種

図 8 や図 15 で示されるように、岡山市内において最も被害程度が大きく、また広範囲に被害が発生している獣種はイノシシである。次いで被害が大きいのはヌートリアおよびハクビシンであると評価される。これら 2 獣種については、現在はイノシシほどの被害の深刻さはないが、図 11 および図 12 に示したように岡山市内全域で被害が報告されており、今後対策が求められる獣種と判断した。

また、有害捕獲羽数が多いカラスについては、アンケートにおいて具体的な被害状況を確認できていないが、ヒアリングの回答ではイノシシと合わせて被害が大きいと回答した小学校区がいくつか見られたことから、まずはアンケートにより実情を把握したうえで対策の要否を検討する必要がある。

##### ② 対策優先獣種に対する今後の対応

イノシシへの被害対策においては、その被害の程度が「非常に大きい」と回答した小学校区のうち、小串小学校および甲浦小学校区においては地域での捕獲を実施していなかった。この理由として捕獲体制の未整備が挙げられたが、本事業を通して捕獲体制の構築・検証を行うことで、自ずと地域の体制整備につながると考えられる。被害程度が「大きい」あるいは「軽微」な小学校区においても捕獲を実施していない小学校区が一定数（4～5 割程度）あることから、捕獲体制が整っていない小学校区を選定し、支援対象とすることで今後、捕獲効果を高められると考えられる。

被害対策の実施時期は作物被害が特に多い水稲やタケノコ（図 28-1）の収穫時期として、タケノコは春先から初夏、あるいは被害が多い時期として複数の小学校区が回答した水稲の収穫時期である 10 月頃の晩秋の実施が効果的と考えられる。

ヌートリアとハクビシンについては、図 21、図 23 に示す通り、いずれの獣種、被害程度においても防護柵の設置、あるいは捕獲を実施している小学校区が少ない。しかし、ヌートリアにおいては有害捕獲での捕獲頭数は 305 頭と多いことから、捕獲技術が広く浸透しておらず、一部でのみ捕獲の成果が増えている可能性がある。一方ハクビシンにおいては、被害は出ているものの有害捕獲による捕獲頭数は 9 頭と他獣種と比較しても少ない捕獲数であった。そのため、両獣種における捕獲手法を普及し、地域主体での捕獲体制を実施することで、捕獲数の増加および被害抑制に繋がると考えられる。併せて防護柵についても、小型獣類を対象とした手法を共有し、捕獲と併せて実施することが望まれる。

被害対策の実施時期は、ヌートリアにおいては被害が特に多い水稲の田植期から収穫時期である初夏から秋にかけて、ハクビシンにおいてはブドウやスイカの収穫時期である夏に実施あるいは対策を強化することで効果が得られると考えられる。

## 5. ICT を活用した捕獲支援

### (1) 支援対象地域

支援対象地域は、以下の表7のと通りの5地区であった。

表7. 支援対象地区名

小学校区名	地区名
千種	南方地区
	鍛冶屋地区
	大内地区
江西	肩脊地区
馬屋上	日応寺地区

### (2) 指導実施計画案の策定

選定された5地区において、現地確認および当該地区で捕獲を実施している狩猟者および地区の代表者等に対し、ヒアリング調査を実施し、イノシシの出没状況や被害情報、現在の捕獲の状況（箱わなの設置場所や捕獲数）、地区での捕獲体制の状況、地域の希望等、地域での捕獲活動実施にあたって必要な情報を収集した。また、特に初めて事業対象地となる地区では、現在の箱わなの設置状況、確認されたイノシシの痕跡の位置や鮮度、量などの情報を収集した（表8）。

なお、仕様書では千種小学校区は鍛冶屋地区が対象となっていたが、千種小学校区の協力狩猟者により弓削地区での実施で調整されていたため、弓削地区の箱わなを対象として、ヒアリングや現地踏査を実施した。しかし、その後、瀬戸猟友会より弓削地区に代わり、大内地区を対象とするとの連絡があったため、11月末からは大内地区を対象とした。また、五城については、地域の捕獲の体制が十分に整っていないとのことで、ヒアリング当日は現状の取り組み状況等をお聞きしたが、今後の具体的な捕獲活動の調整や被害現地の確認はできず、後日今後の意向を伝えるとのことであった。

表8. ヒアリングおよび現地踏査の実施日一覧

小学校区名	地区名	実施日
千種	南方地区	令和7年11月6日
	弓削地区	令和7年11月6日
	大内地区	令和7年11月26日
江西	肩脊地区	令和7年12月6日
馬屋上	日応寺地区	令和7年11月21日
五城	御津地区	令和7年11月26日

なお、ヒアリングおよび現地踏査によって得られた情報をもとに、地区ごとの被害・対策状況に合わせた指導実施計画を策定することとなっていたが、いずれの地域もすでに対象とする箱わなの場所を決定していたため、各地域がご希望する箇所にて捕獲を実施することとした。

### (3) 事業説明会・捕獲技術講習会の実施

支援対象地区の捕獲に関わる地区関係者を対象とした住民説明会および捕獲技術講習会を表9のとおり実施した。今年度においては、事業趣旨が地区の代表者や捕獲協力者（狩猟者）に十分に伝わっていなかったことや、関われる地域住民が数名であることか

ら、どの地区も地域全体の住民を集めての講習会は実施されなかった。当日参集した事業に関わる方々に対し、事業の趣旨説明に加え、箱わな捕獲技術講習会および安全管理講習会を現地確認を含めて実施するとともに、協力頂く狩猟者にも来場いただき、狩猟者と地域住民が協力した効率的かつ安全な捕獲を進めるための作業や役割分担について説明した（写真1）。

また、説明時は、箱わなや事業で使用する IoT カメラの使用方法や撮影の確認方法についても分かりやすく解説するとともに、事業のスケジュールや支援内容についても共有した。なお、IoT カメラには WAM キャプチャー-04G（ファームエイジ株式会社製）を準備した（写真2）。また、このカメラの電池交換等は、原則狩猟者および地区の代表者が実施することとなっていたが、現地の状況確認も同時に行ったため、全て受託者が実施した。

表 9. 事業説明会・捕獲技術講習会の実施日一覧

小学校区名	地区名	実施日	会場
千種	南方地区	令和7年11月6日	現地
	弓削地区	令和7年11月6日	現地
	大内地区	令和7年11月26日	自治会長井上氏自宅
	鍛冶屋地区	令和8年2月2日	現地
江西	肩脊地区	令和7年12月6日	肩脊コミュニティセンター
馬屋上	日応寺地区	令和7年11月21日	日応寺公民館



写真1. 現地確認の様子  
左上：肩脊地区 右上：大内地区



写真2. 本事業で使用した IoT カメラ（WAM キャプチャー-04G）

#### (4) モニタリング・巡回指導等の実施

各地区の箱わなのエサの管理状況やイノシシの誘引状況について、各箱わなに設置したIoTカメラの画像により、毎日確認し記録をつけた。確認された画像からイノシシの寄りつきやエサの採食状況に応じ、地域の捕獲協力者および狩猟者に対し、エサを撒く位置やトリガーセットのタイミングを電話、SMS等を使用して伝えた。

また、事業期間中に受託者は以下に示すとおり、各地域の現地に2回以上赴いた。特に捕獲に至らない際に、箱わな周囲へのイノシシの誘引状況や周囲への出没状況、痕跡状況等を現地確認するとともに、改めて踏査するか、地域の要望等を聞き、移設の候補地検討等をした。なお、以下においては、実施した遠隔支援は主だったもののみ記載している。

#### 【南方地区における支援内容】


実施日	実施項目	内容
12月17日	遠隔支援	檻にカメラを設置して以降、イノシシ2頭が頻回に出没していたが、なかなか檻内には入らなかった。 12月に入ってから、1頭が檻内に入り始めたが、もう1頭は外からエサを食べることを覚え、檻内に入らないことが続いた。原因はエサの撒きすぎで、檻のフチまでエサが広がっていることから、外から口が届くことであった。そのため、檻の下から土を掘って食べる行動も見られた。 そののため外から口が届かない様に、檻の中心よりにエサを配置することが良いと伝えたが、改善はされなかった。
1月5日	遠隔支援	檻周囲の住民より、12月30日に近くの駐車場にイノシシが現れた情報が入る。檻に出没している個体と同一か分からないが、捕獲に努めることを伝える。
1月6日		イノシシ最大3頭が撮影され、檻周囲での採食が確認されたが、檻内には侵入していなかった。その後1月20日まで出没が途絶えた。
1月26日	遠隔支援	イノシシ2頭が現れ、うち1頭は檻内に入っていることが確認された。もう1頭は引き続き外からエサを採食しているため、檻の中のエサを減らし、外から口が届かない様にエサを配置してほしいことを伝えた。
1月29日	現地確認	引き続き1頭が檻の外からエサを採食していることと、蹴り糸まで体が届いていない（奥まで十分に侵入していないため、エサの配置を、蹴り糸から15cm程度奥かつ、中央に配置することを伝えた。しかし、イノシシが警戒しているとのことを理由に、エサの配置が変更されることはなかった。
1月30日		捕獲者よりトリガーをセットするとの連絡があったが、この日は捕獲されなかった。
2月2日		捕獲者よりトリガーをセットするとの連絡があったが、この日は捕獲されなかった。

		<p>2月4日にイノシシ1頭が捕獲された。</p> 
		<p>2月4日の捕獲日以降、イノシシの出没はほぼなくなり、捕獲事業を終えた。</p>

【弓削地区→大内地区における支援内容】

実施日	実施項目	内容
11月10日	遠隔支援	<p>カメラを設置した翌日から、シカ単独1頭や、2頭連れが撮影されたが、檻内にまだまだ十分に体を入れていなかった。しかし、前日の9日に、捕獲者よりトリガーをセットした連絡があったが捕獲には至らなかった。蹴り糸手前や捕獲時にもかかわらず入口付近にエサを撒いていることが原因と考えられたが、捕獲者が長年実施しているスタイルの様で、改変されることはなかった。</p>
11月26日		<p>上述の理由から、弓削は対象外となり、大内地区を対象とすることとなった。</p>
12月12日	現地確認	<p>大内地区でも対象とする檻はすでに決定しているとのことであったため、その檻が設置されている現地にて、捕獲に従事される3名の方とともに、状況を確認した。近年イノシシがよく捕獲されている檻の一つであるとのこと、現地確認時もわなの手前までイノシシが来ている痕跡があった。</p>

		<p>捕獲に従事される方には、エサの撒き方や檻の中に入る際の注意点、カメラで日々監視していることなどを伝えた。特に、イノシシがすでに近くまで来ていることから、檻内に徐々に誘引する様にエサを撒いて欲しいことを伝えた。</p> 
12月19日	現地作業 (カメラ調整)	<p>捕獲者より、檻の入り口までイノシシが来ているはずだが、カメラに撮影されていない、との連絡を受けたため、カメラの位置を変更した。以前は、上から檻を撮り下ろす画角としていたが、横方向からの画角とし、檻の入り口に近くイノシシが十分に映る画角とした。</p> 
12月28日	遠隔支援・確認	<p>日々の見回りや餌やりを捕獲者が実施していたことから、今回の事業の趣旨と異なることになっていたため、地域の方をお願いしてほしいことを伝えた。 *地域の方には他の檻の見回りを担当してもらっているとのことで、以降、なかなか徹底はされなかった</p>
1月28日	現地確認	<p>イノシシの来訪はほぼ毎日あるものの、檻内に入ることがないため、現地確認した。 檻の入り口外にもエサが引き続きまかれていることから、檻内にイノシシが入らないと想定された。そのため、檻の入り口下とその奥にエサを配置して誘引してほしいことを伝えた。</p>

3月6日	現地確認	その後イノシシは毎日の来訪ではないが、時折わなの周囲に出没し、わな周囲のエサを採食していた。 ただし、依然として檻内に入る様子はなかった。そのため、再度現地を確認したところでは、エサが檻の外にまかれていたことから、檻の外のエサを撤去すること、また蹴り糸の設置位置がやや入口に近い（入口から1m未満）ため、捕り逃がしの可能性が高いことから、蹴り糸をもう少し奥に設置することを提案し、翌月曜日に対応することとなった。
3月9日	現地確認	扉外のエサは全て食べられていたことから、前日に確認したとおり扉すぐ奥にあるエサを更に奥に移動させ、イノシシが檻内に十分に体を入れる様にエサの配置を変えた。 それに伴い、蹴り糸も、入口から約80cm程度の位置を、入口から120cmに変え、捕り逃がしが発生しない位置とした。 
		しかしその後、捕獲者によりエサがまた扉外に撒かれてしまい、イノシシの来訪は確認されるが、檻内に入らず3月末まで捕獲には至らなかった。

【五城地区→鍛冶屋地区における支援内容】

実施日	実施項目	内容
		11月26日に、地域で方針を考えるとのご意見を受けたが、その後連絡がないため、発注者とも相談し、発注者より五城の連長に意向を伺っていただいた（12月23日）。協力者1名の目途はついていないが、再度地域で方針の話合いが必要な段階であると聞いた。 そのため、12月末に受託者より連長に状況把握のために連絡を取った。 年明けに地域での集まりがあるため、そこで方針を決定するとの返事であった。
1月28日		電話にて意向を確認したが、地域の体制的に本事業に参画すること難しいとの理由により、対象地から外れることとなった。
2月2日	現地確認	発注者との協議の結果、五城に代わる地域として、当初の仕様書に対象とされていた、鍛冶屋とすることとなっ

		た。2月2日より、カメラを鍛冶屋の檻に設置した。
2月5日	現地確認	<p>映り込みがあまりないが、林縁から檻の付近に出てきている痕跡はあったため、檻の周囲にイノシシがいるかを確認するため、林縁およびそこから檻につながる様、ヌカを撒いた。</p>  <p>2026/02/05 11:35:06 PIR Trigger 18 13°C 55°F 47</p>
	遠隔支援	その後数日は、林縁から檻間のヌカの採食が確認されたが、イノシシが定着することはなかった。
2月末	調整	イノシシの寄りつきがないこと、また周囲の檻で1頭イノシシが捕獲されたことから、この影響もあると推察されたことから、場所を変えることとした。
3月6日	現地確認	<p>現在イノシシの出没があるとされる場所の檻にカメラを設置した。</p>  <p>2026/03/06 09:59:12 Manual 16 17°C 63°F 5</p>
3月12日		イノシシ2頭の出没が確認された。しかし、その後も檻の扉付近のエサは採食するが、それ以上は近づかず、また出没は毎日ではなかった。3月25日以降出没が途絶

		<p>え、本事業での捕獲終了となった。</p> 
--	--	--

【日応寺地区における支援内容】


実施日	実施項目	内容
12月8日	現地確認	<p>しばらく観察を継続したが、イノシシの撮影が全く確認されなかったことから、カメラを山林側へ向け、またそちら側にもエサを撒き、檻の周囲にイノシシがいるかを確認することとした。</p> <p>ただし、現地確認した限りでは、イノシシの新しい痕跡は確認されなかったため、この場所での捕獲は難しいと評価された。</p>
1月中旬	遠隔支援	<p>その後もイノシシが撮影されることはなかったため、場所を変更することを、地区代表者に打診した。</p> <p>その際、箱わなは弊社より貸与できることを伝え、箱わなの設置がない場所でも候補地とすることは可能であることを伝えた。</p>
2月10日	現地確認	<p>馬屋上小学校の敷地内にイノシシが出没しているとのことで、候補地をして紹介があった。</p> <p>1カ所目は野外活動をするエリアであったが、確認された痕跡は古く、最近イノシシが出発していないように評価された。</p>  <p>もう一つの候補地は、小学校グラウンド近くのエリアで</p>

		<p>あった。こちらは箱わなを設置できる平地がある場所から、5 mほど離れた場所にヌタバがあり、イノシシが最近利用していると評価される痕跡があった。そのため、ここを候補地とし、しばらくカメラで撮影して様子を確認することとした。</p> 
<p>2月20日</p>	<p>現地確認</p>	<p>その後、2月18日にイノシシ数頭が撮影された。連日の撮影はなかったが、エサを撒いて様子を確認することとした。</p>  

2月22日		<p>エサを撒いた20日の夜に、イノシシ1頭が撮影されたため、22日に再度現地確認をしたが、撒いた餌は全く採食されていなかった。</p> <p>しかし、23日、25日にも同一個体と思われるイノシシが撮影されたことから、ここに箱わなを設置して捕獲を試みることにした。</p> 
3月4日	現地作業	<p>現在エサを設置していたあたりに、箱わなを設置した。なおこの箱わなは弊社より貸し出した箱わなで、当日は捕獲者と地区代表者、小学校教員が立ち合い作業した。</p> 
3月27日		<p>設置以降、カメラへのイノシシの撮影およびエサの採食は確認されず、捕獲には至らなかった。</p>

【肩脊地区における支援内容】

実施日	実施項目	内容
12月8日		<p>初回現地確認をした2日後に、候補地にカメラを設置した。イノシシが何度か映ったが、電波の受信が不安定であることから、確実な撮影が難しいと判断し、別の場所の箱わなを対象とすることとした。</p>

		
12月13日	現地作業	<p>次の候補地として紹介された場所は、イノシシの新しい痕跡が多く確認されたこと、また電波の感度もよいことから、この場所を対象とすることとした。</p> <p>なお、この場所にはすでに箱わなが設置されていたが、非常に小さいサイズであることから、誘引されたイノシシのサイズによっては、弊社の箱わなを貸出することとした。</p>  

	遠隔支援	<p>その後、ほぼ毎日イノシシが撮影されたが、イノシシのサイズが大きいこと、複数頭で来訪していることから、現在設置されている箱わなでは捕獲が難しいと判断し、弊社の箱わなを貸与し設置することとした。</p> 
12月26日	現地作業	<p>弊社貸与の箱わなを設置した。 新しく箱わなを設置したことから、イノシシの警戒が高まる可能性があるため、扉の少し離れた位置からエサを撒いて誘引を試みて欲しいことを伝えた。</p> 
1月28日	現地確認	<p>その後、12月30日からイノシシが撮影されるようになり、わな近くのエサも採食するようになってきたが、扉前までとどまってしまうことから、扉すぐ奥のエサを、扉直下まで寄せて、様子をうかがうこととした。</p>
1月29日	現地確認	<p>上記の方法を取ったところ、イノシシが扉下のエサを採食している様子が確認されたことから、さらに奥へ誘引する様にエサ撒きを指導した。</p>

		<p>これまで、檻内になかなか体を入れなかったことから、撒いている山上のヌカを、次の山とつながる様にしたまき方をする事とした。</p> 
	<p>現地作業</p>	<p>このまき方を実施した結果、イノシシが檻の奥まで入り、一番奥のエサを完食したことが確認されたことから、2月4日にトリガーをセットし、翌日イノシシ1頭が捕獲された。捕獲者は、大きな個体の処理は不慣れとのことであったことから、受託者が捕殺方法について現地指導した。</p> 
	<p>遠隔支援</p>	<p>捕獲後、他の個体が周囲にいる可能性が高かったことから、再度誘引を試みたが、2月中旬になってもイノシシが撮影されなかったことから、箱わなを移設することを地域に提案した。</p>
<p>2月19日</p>	<p>現地作業</p>	<p>地域から箱わなの移設地としては、候補がないとのことであったことから、現地踏査をし、候補地を選定した。2月21日にこの場所の土地所有者から箱わなの設置許可が得られたことから、カメラとエサを設置して、イノシシの来訪状況を確認することとした。その結果、複数のイノシシがほぼ毎日撮影されたことから、この場所に箱わなを設置することとした。</p>

		
2月26日	現地作業	箱わなを設置した
		<p>2頭のイノシシがほぼ毎日出没し、3月8日には檻内の一番奥のエサを採食したことから、3月9日にトリガーがセットされ、翌日3月10日にイノシシ1頭が捕獲された。</p> 

本事業における各地区での捕獲数は南方で1頭、肩脊で2頭の合計3頭であった（表10）。

今年度においては、エサに対するイノシシの誘引が低く、毎日出没しない、毎日採食しないなどの行動が確認された。馬屋上小学校の檻の周囲では、堅果類のどんぐりが多く落下しており、捕獲活動期間中になくなることはなかった。

今年度、捕獲数が少なかった理由には、堅果類等が豊作であったことから、檻のエサの誘引効果が非常に低かったことも大きな原因であったと考えられる。

表 10. 各地区でのイノシシ捕獲数

地区名	捕獲数
南方地区	1
肩脊地区	2
大内地区	0
鍛冶屋地区	0
馬屋上地区	0

## (5) 考察

いずれの地区も捕獲数が少なく、捕獲実績は思うように上がらなかった。ただしわな管理者および捕獲者（狩猟者）に対し、捕獲活動を通じてイノシシの誘引状況の確認、適切なエサの量や配置、捕獲のタイミングの判断方法、複数個体を一度に捕獲するための仕掛けの工夫などをお伝えし、実体験していただくことにより技術移転することができたと考える。

今後の課題・提案を以下のとおり記載した。

### ① 支援の実施時期

表 1 および図 28 で示されているように、イノシシによって最も大きな被害を受けている作物は水稻、次いでタケノコおよびサツマイモである。また、今回対象となった地域のうち、鍛冶屋地区においては、モモの被害が大きいとのことであった。岡山市では水稻が出穂しイノシシ被害が発生し始めるのが8月下旬頃からとなり、水稻の収穫が終わるとイノシシが耕作地にはほぼ出没しなくなる。サツマイモは9月から11月末まで、モモは6月から9月までが収穫期であることを考慮すると、本事業の実施時期は、6月頃には開始している必要があると考える。

### ② 事業趣旨の伝え方

今年度においては、地区全体の方を対象とした事業説明会は、どの地域も実施されず、捕獲に関わる数名と捕獲者（捕獲許可者）や地域代表者が参集したのみであった。また、南方地区、大内地区については、わなの見回りやエサやりを捕獲者（しかも、かなりの捕獲実績がある方）が実施していることや、捕獲者による捕獲を支援する事業と勘違いしている地区もあった。肩脊においては、説明会に参集した方々は全員狩猟者であった。

このことから、事業の趣旨が十分に地域に伝わっていない、狩猟者の方へより情報が伝わっている印象を受けたため、事業の説明は地域の代表者に正確に内容を伝え、その後も地域での取り組みを支えるものとして、地区代表者が窓口となって、地域住民に、この事業に関わっていただく必要があることを十分ご理解頂くことが必須であると考えます。

### ② 移設可能な箱わなの準備と貸与

効果的な捕獲を進める上で、被害発生に応じて適切な場所に箱わなを移設することが重要である。本事業当初、移設可能かつ、適切な大きさの箱わなを用意していたのは鍛冶屋地区と南方地区の2地区のみであった。その他の地域においては、移設が不可能な大型の箱わなや、体格の良いイノシシの捕獲は難しいと思

れる、非常に小さい箱わなであった。

被害軽減のために捕獲を進める場合、被害地周辺で捕獲を実施し、被害を出している個体を捕獲することが必須である。そのためには、流動的に設置場所を変えられる重量かつ大きさの箱わなを使用することが必須となる。

対象地区においては、必ず移設可能なわなを準備していただくことを条件とするか、事業から移設可能な箱わなを貸与する等のいずれかの条件が必要である。

#### ④支援対象について

今年度までの事業においては、地域での捕獲体制構築のため、地域住民が見回りやエサやりを実施し、遠隔支援や現地確認により、地域住民にも捕獲の技術を習得して頂き、地域での捕獲力の向上を図ることを目的に実施してきた。

引き続き、この体制に対する支援業務を進めることで良いと考えるが、もし対象地域に箱わな捕獲の経験が浅い狩猟者がいれば、その方の技術支援とすることもよいと考える。例えば、肩脊地区では、経験の浅い狩猟者がわなを管理することとなった。効率的かつ効果的にわなへ誘引するためのエサの撒き方、わな内へイノシシが入らないときにすべき工夫、安全な止めさし方法など、確実にできる狩猟者を増やすことから、その狩猟者から地域住民に技術移転することも可能になり、地域の捕獲数を増やすことにつながっていくと考える。

また、捕獲の技術を習得して頂くためには、捕獲の経験をたくさん積むことが必須である。現在は、1地域に1台のカメラを貸与し、捕獲を支援することとしているが、対象地を減らし、代わりに1地域に2台から3台貸出して、捕獲を実践していただくことも、変更案の一つに挙げられる。

## 6. 事業全体の総括

本事業において、今年度設置したIoTカメラにおけるイノシシの撮影では、檻設置付近へのイノシシの出没は確認されたが、檻内へなかなか入らなかったり、檻を設置した後、出没数が激減した事例があった。岡山市においては、2025年のイノシシの有害捕獲頭数は2,598頭となり、2024年の3,351頭、2023年の3,463頭と比較して1,000頭程度減少していた。令和7年度は西日本においてはイノシシの捕獲数が減少傾向にあると聞いている。この要因としては、イノシシの間で拡大している豚熱(CSF)による個体数の減少や、堅果類であるドングリ等の豊作年にあたったことから、山中の餌資源が豊富であったことが挙げられる。これらにより、農地へのイノシシの出没が減少した年、わなの餌に対する誘引効果が低下した年であったと推察される。

一方、今年度のイノシシの捕獲頭数は減少したものの、農作物等への大きな被害は依然として継続して発生している。ただし、アンケートの結果からも、イノシシの被害対策においては防護柵および捕獲のいずれも有効性が高く評価されており、これらを適切に併用することで、より高い防護効果が期待される。今後も地域の実情に並び、防護と捕獲の両面から対策の強化が望まれる。